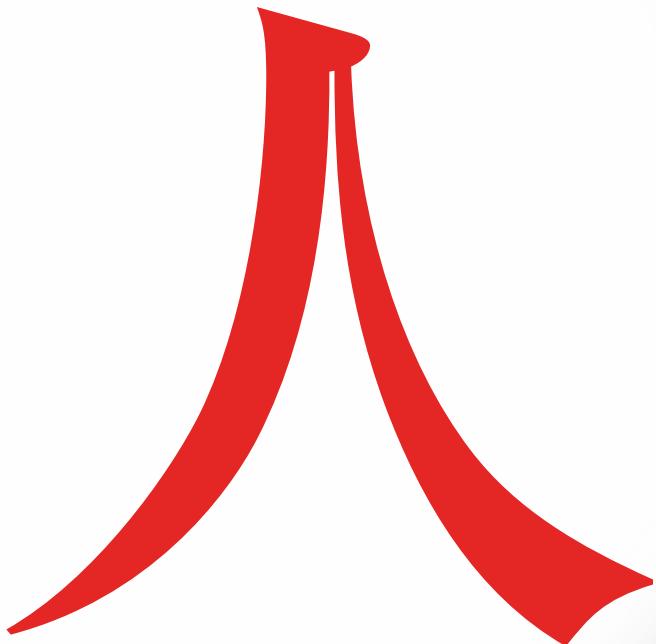


2018

履修要覧

人間科学部

卒業まで使用しますので
必ず保管して下さい



強く、優しく。

 金城学院大学

【 学 部 編 】

I ポリシー

- | | |
|---------------------|------|
| 1 ディプロマ・ポリシー | 学部 1 |
| 2 カリキュラム・ポリシー | 学部 3 |

II 卒業要件単位数（詳細）

- | | |
|---------------------|------|
| 1 卒業要件単位数（詳細） | 学部 6 |
|---------------------|------|

III 学科独自の制度

- | | |
|-------------------------------|------|
| 1 現代子ども学科 再試験・追試験制度について | 学部 7 |
|-------------------------------|------|

IV 科目分類番号

- | | |
|--------------------|------|
| 1 科目分類番号について | 学部 8 |
|--------------------|------|

V 共通教育科目等の課程表

- | | |
|---------------------|------|
| 1 共通教育科目等 課程表 | 学部 9 |
|---------------------|------|

VI 専門教育科目のカリキュラム・ツリーおよび課程表

- | | |
|------------------------|-------|
| 1 カリキュラム・ツリー | 学部 19 |
| 2 現代子ども学科 課程表 | 学部 22 |
| 3 多元心理学科 課程表 | 学部 25 |
| 4 コミュニティ福祉学科 課程表 | 学部 28 |

VII 教免取得に関する教育課程表

- | | |
|----------------------|-------|
| 1 中高免教職課程について | 学部 31 |
| 2 幼一種免教職課程について | 学部 41 |
| 3 小一種免教職課程について | 学部 45 |

VIII 各種資格

- | | |
|-----------------------------|-------|
| 1 保育士資格について | 学部 50 |
| 2 精神保健福祉士国家試験受験資格について | 学部 55 |
| 3 公認心理師国家試験受験資格について | 学部 56 |
| 4 社会福祉士国家試験受験資格について | 学部 58 |
| 5 初級障がい者スポーツ指導員について | 学部 60 |
| 6 中級障がい者スポーツ指導員について | 学部 61 |

1 ディプロマ・ポリシー

ディプロマ・ポリシーとは金城学院大学の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学修成果の目標となるものです。

[1] 大学ディプロマ・ポリシー

本学では、4年（薬学部は6年）以上本学に在学し、各学科が定める卒業要件総単位数を修得し、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

（知識・技能）

1. キリスト教的価値観を基盤として豊かな人間性を支える教養を身につけている。
2. 新しい時代にふさわしい専門的知識や技能を身につけている。

（思考力・実践力）

3. 身につけた知識や技能を生かし、諸問題に対処することができる。
4. 自ら問題を発見し、適切な分析と考察に基づいて解決策を見いだし、実践に移すことができる。

（コミュニケーション力）

5. 相手の意見をきちんと聞き理解するとともに、自らの考えを適切に表現し伝えることができる。
6. 発信するべき自らの意見や立場について常に考える姿勢を身につけている。

[2] 人間科学部ディプロマ・ポリシー

人間科学部では、4年以上在学し、各学科が定める卒業要件総単位数を修得し、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

（知識・技能）

1. 豊かな人間性を支える教養を身につけている。
2. 科学的な視点から人間を理解するための知識を身につけている。
3. 教育学、心理学、社会福祉学を基礎とした専門的な知識と技能を身につけている。

（思考力・実践力）

4. 人間の多様な側面を総合的、多角的に理解するための思考力を身につけている。
5. 専門的倫理、知識、技能を統合し、効果的な実践を行うことができる。

（コミュニケーション力）

6. 他者に肯定的な関心をもち、他者と積極的にかかわることができる。
7. 他者の意見を尊重しつつ、自分の意見を表現することができる。

[3] 現代子ども学科ディプロマ・ポリシー

現代子ども学科では、4年以上在学し、128単位以上を修得し、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

（知識・技能）

1. 子どもの心と身体の発達に関する知識を身につけている。
2. 幼児・初等・中等教育あるいは保育の内容および指導法を習得している。
3. 教育者あるいは保育士として活躍できる専門的倫理、知識、技能を身につけている。

（思考力・実践力）

4. 幅広い年齢の子どもを総合的・多角的に理解することができる。
5. 子どもや家族が置かれている状況を踏まえつつ、保育や家族支援、教育のあり方について考えることができる。
6. 専門的倫理、知識、技能を統合し、効果的な実践を行うことができる。

（コミュニケーション力）

7. 他者の意見を尊重しつつ、自分の意見を表現することができる。
8. 子どもの発達や特性に応じたコミュニケーションをとることができる。
9. 教育あるいは保育活動に必要な協調性や協働力、指導力を身につけている。

[4] 多元心理学科ディプロマ・ポリシー

多元心理学科では、4年以上在学し、128単位以上を修得し、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

(知識・技能)

1. 人に対する肯定的な関心を持っている。
2. 人の行動と心の働きについての知識とその理解の方法について学修し、社会や人間関係の中で、自己の能力を発揮していく力を身につけている。
3. 自らの関心を深めるための意欲と能力を有し、心理学的専門性を用いて社会へ貢献することができる。

(思考力・実践力)

4. さまざまな人間の行動と心理的現象について、心理学で用いられる論理をもとに分析・理解することができる。
5. 上記の思考にしたがって、心理学的研究法をもちいて、考察を行うことができる。
6. 上記の人間理解の活動を通して、自己理解および他者理解を深めることができる。
7. これらの力を通じて他者や社会に働きかけることができる。

(コミュニケーション力)

8. 上述の実践等を実現するために自ら思考したことから、適切な表現を用いて発信する能力を有する。
9. 相手の意見や説明を客観的で中立的な態度で聴くことができる。

[5] コミュニティ福祉学科ディプロマ・ポリシー

コミュニケーション力では、4年以上在学し、128単位以上を修得し、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

(知識・技能)

1. 豊かな人間性を支える教養を身につけている。
2. 科学的な視点から人間を理解するための知識を身につけている。
3. コミュニティにおける多様な生活問題を把握し、問題解決とコミュニティ形成を行うために必要な知識と技能を習得している。

(思考力・実践力)

4. 人間の多様な側面を、「個人と環境」という複眼的な視点から、総合的、多角的に理解するための思考力を身につけている。
5. ソーシャルワーマンに必要な倫理、知識、技能を統合し、問題解決とコミュニティ形成を行うことができる。

(コミュニケーション力)

6. ソーシャルワーマンの観点から、福祉課題を抱えた人やコミュニティを的確に理解し、社会関係を形成して、福祉的支援とコミュニティ形成をおこなうことができる。
7. 体験型学習・実践研修・実習を通じて、子ども・高齢者・障がいのある人とコミュニケーションをとり、生活や活動を支えることができる。

2 カリキュラム・ポリシー

カリキュラム・ポリシーとはディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針です。

[1] 大学カリキュラム・ポリシー

1. 本学では、学生がキリスト教的価値観を基盤として豊かな人間性を支える教養を身につけるように、全学共通カリキュラムである「共通教育科目」(1～4 (薬学科以外の学科) / 1～6 年次 (薬学科)、必修および選択必修として30単位、ただし外国語コミュニケーション学科は22単位、音楽芸術学科は28単位、薬学科は36単位) を設置する。

具体的には、「I 建学の精神を学ぶ科目」(金城アイデンティティ科目) として「①キリスト教」、「②女性」、「③国際理解」の科目群を置き、建学の精神を具現化する。

「II 現代社会の教養の基礎となる科目」として「④教養科目」を置き、人間としてのあり方や生き方に關して考える機会を提供するとともに、社会人の基礎力を養成する。

「III 現代社会に必要なリテラシーを身につける科目」として「⑤英語教育科目」、「⑥外国語教育科目」を置き、異文化に生きる人々とのコミュニケーション手段と自文化を相対化する視点を獲得させる。同時にグローバル社会に生きるために必要な心の姿勢を身につけさせる。「⑦情報教育科目」を置き、情報化社会で生きていくために必要となる知識や技能を身につけさせる。「⑧キャリア開発教育科目」を置き、仕事や職業だけではない、人生としてのキャリアを重視した教育を行い、人生を積極的に切り開く主体性を培う。

「IV スポーツを通じて健康増進を図る科目」として「⑨S&E教育科目」を置き、生涯にわたっての健康づくりを支援する。

「V 実践から学ぶ科目」として「⑩海外研修科目」、「⑪学生プロジェクト科目」を置き、実体験を通した学習の重要性を理解するとともに、能動的に学ぶ姿勢を身につけさせる。

2. 学生が教育職員免許状授与の所要資格を得られるように、「教職に関する科目」を設置する。

3. 外国人留学生が日本語運用能力の向上を図り、日本文化について幅広く学習できるように、「日本語科目・日本事情に関する科目」を設置する。

4. 学生が新しい時代にふさわしい専門的知識や技能を身につけるように、各学部・学科に「専門教育科目」を設置し、カリキュラム・ポリシーは別に定める。

5. 学生が興味に応じて幅広く学習できるように、共通教育科目および他学部他学科の専門教育科目を自由に履修できる「自由履修制度」(1～4 年次選択28単位、音楽芸術学科、多元心理学科は26 単位、食環境栄養学科は 3 単位、国際情報学科は22単位、薬学科を除く) を置き、積極的な学習を奨励する。

6. 学生が身につけた知識や技能を生かし、諸問題に対処する力を養うように、「演習科目」を設置する。

7. 学生が相手の意見をきちんと理解するとともに、自らの考えを適切に伝えることができる力を養うように、少人数クラスの「演習科目」を通じて、プレゼンテーションとディスカッションを重視した教育を行う。

8. 学生が自ら問題を発見し、適切な分析と考察に基づいて解決策を見いだし、実践に移すことができる力を養うように、授業において課題を課し、その評価を行う。

9. 学生が発信するべき自らの意見や立場について常に考える姿勢を身につけるように、「専門教育科目」、「共通教育科目」および「演習科目」を通じて積極的かつ発展的に考えるよう指導する。

[2] 人間科学部カリキュラム・ポリシー

人間科学部では、以下の方針に基づき、教育課程を編成し実施する。

1. 学生が豊かな人間性を支える教養を身につけるように、全学共通のカリキュラムである「共通教育科目」(1～4 年次、必修および選択30単位) を通じて、社会人基礎力をはじめ、社会で生きていくために必要となる幅広い知識や技能を教育する。

2. 学生が科学的に人間を理解するために必要な考え方を養うように、「学部共通科目」を設置し、人間理解のための基礎的な知識と方法について教育する。
3. 学生が、教育、心理、福祉分野の専門的知識を身につけるように、「基礎科目」を設置し、各分野の入門と概論を教育するとともに、「展開科目」を設置し、これらの分野の様々な発展的内容を教育する。
4. 学生が、科学的な研究方法を用いて人間の発達、こころ、表現について適切に分析し、考察する力を養うように、「演習科目」を設置し、身につけた知識を用いて問題を解決する演習を行う。
5. 学生が物事を論理的に考え、分析し、判断する力を養うように、「基礎科目」、「展開科目」および「演習科目」を通じて、体験や実習、発表を重視した教育を行う。
6. 学生が自らの考えを、多様な表現方法を用いて適切に表現し伝える力を養うように、「展開科目」と「演習科目」を通じて、言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーションなどの技術を指導する。
7. 学生が他者の立場や見解を理解しつつ、自らの意見を発信する力を養うように、「演習科目」を通じて、プレゼンテーションとディスカッションの指導を行うとともに意見交換を重視した教育を行う。

[3] 現代子ども学科カリキュラム・ポリシー

現代子ども学科では、以下の方針に基づき、教育課程を編成し実施する。

1. 学生が子ども、発達、教育、保育などに関する基礎的な知識を身につけるように、「学科基礎科目」(1~2年次、選択8単位)として「教育人間学」(2年次、選択2単位)「幼児教育学」(1年次、選択2単位)「生涯発達心理学概論」(1年次、選択2単位)「子ども発達援助論」(1年次、選択2単位)などを設置し、教育学、心理学、保育学などの入門と概論を教育するとともに、「学科展開科目」(1~4年次、選択49単位)を設置し、これらの分野の様々な発展的内容を教育する。一部プログラムでは、これを「演習科目」や「実習科目」においても行う。
2. 学生が幼児・初等・中等教育あるいは保育の内容および指導法を習得するように、教育と発達の分野、こころの理解の分野、家族と福祉の分野、発達援助と健康の分野、保育の分野、芸術と文化の分野の「学科展開科目」や「資格関連科目」を設置し、子どもを総合的・多角的に理解する力を養い、専門的倫理、知識、技能を高める教育を行う。とくに芸術と文化の分野では、少人数指導や個別指導を行う。
3. 学生が子どもの発達や特性に応じたコミュニケーション力ならびに協調性や協働力、指導力を養うように、また、教育あるいは保育の効果的な実践を行えるように、資格・免許に関する「実習科目」を設置し、事前・事後指導ならびに実習時の訪問指導を行う。一部プログラムでは、これを「学外教育実地演習」においても行い、学生の教育ボランティア活動を支援する。
4. 学生が子どもや家族が置かれている社会状況を的確に捉える視点を身につけるとともに、保育や家族支援、教育のあり方について分析し考察する力、あるいは芸術・文化の分野での表現力を養うように、1年次の「人間科学基礎演習」(必修2単位)、2年次の「子ども学基礎演習」(必修1単位)、3年次の「現代子ども学演習(1)」(必修2単位)、4年次の「現代子ども学演習(2)」(必修2単位)を設置し、段階的系統的な演習ならびに指導を行う。
5. 学生が他者理解をしつつ、自分の意見を表現することができるよう、また学生が互いに学び合い、支え合う関係を築くことができるよう、「演習科目」を通じて、プレゼンテーションやディスカッションの指導を行うとともに、意見交換やグループワークを重視した教育を行う。

[4] 多元心理学科カリキュラム・ポリシー

多元心理学科では、以下の方針に基づき、教育課程を編成し実施する。

1. 学生が心理学という初めて学ぶ学問領域の対象、考え方、方法などを理解できるように、「学部共通科目」(1年次、必修および選択12単位)、「学科基礎科目」(1~4年次、必修および選択22単位)を置いて教育を行う。
2. 「学科基礎科目」には、「社会学概論」(1年次、選択2単位)のように心理学に関連する幅広い周辺の学問領域も取り入れていく。
3. 「学科基礎科目」には、心理学的思考と分析方法を具体的に学ぶことができるように、「心理学研

究法」（2年次、必修2単位）や「心理学実験A」（2年次、必修2単位）、「心理学実験B」（2年次、必修2単位）、「データ解析法A」（2年次、選択2単位）などの科目を設置する。

4. 「学科展開科目」で学ぶユニットの内容について詳しく把握するために、「多元心理学入門」（1年次、必修2単位）を「学科基礎科目」に設置する。
5. 4年間の学びを心理学の広い領域の中で位置づけ、再確認して統合することができるよう、「多元心理学総論」（4年次、必修2単位）を「学科基礎科目」に設置する。
6. 心理学のより高度な各論的科目を「学科展開科目」（1～3年次、選択128単位）に十分に設置し、それらをユニットとしてまとまりを持って学修できるように配置する。
7. 複数のユニットを履修することで、多角的かつ合目的的に心理学が学修できるように「学科展開科目」を設置する。
8. 学生が実際に自らの思考を推し進め、データ収集、データ分析、考察検討などを行うことを目的とした「演習科目」（1～4年次、8単位）を設置する。
9. 大学における学習成果を「卒業論文」（4年次、選択6単位）もしくは「演習科目」の中で言語化、発信することを通して、コミュニケーション力、表現力、書く力などを養成する。

〔5〕 コミュニティ福祉学科カリキュラム・ポリシー

コミュニケーション力では、以下の方針に基づき、教育課程を編成し実施する。

1. 学生が豊かな人間性を支える教養を身につけるために全学共通のカリキュラムである「共通教育科目」（1～4年次、必修および選択30単位）を、学生が科学的に人間を理解するための基礎的な知識と方法を身につけるために学部共通のカリキュラムである「学部共通科目」（必修2単位、選択必修4単位）を設置して、教育をおこなう。
2. 学生が人間科学の知識と生活者の視点に基づいて、コミュニケーション形成を担っていく知識と実践力を身につけるよう、社会福祉領域の主要な科目として「学科基礎科目」（4科目、必修7単位）を開設し、専門的な知識・技術を学ぶ科目として「学科展開科目」（総数73科目）を開設する。その内容としては、ソーシャルワーマン実践科目（選択必修科目含む12科目）、社会そうぞう力を養う科目（10科目）、協働実現力を養う科目（11科目）、問題解決力を養う科目（11科目）、社会福祉専門力を養う科目（21科目）、ソーシャルワーカー実践科目（8科目）で構成する。加えて「演習科目」（4科目、1、3～4年次必修6単位）、4年次にソーシャルワーカー関連科目（3科目、合計6単位）もしくは「卒業論文」（6単位）の選択必修科目を設け、専門的な知識・技術を体系的に教育する。
3. 学生が、他者の立場や意見を理解し、また自分の意見を発表してディスカッションを重ねることでコミュニケーション力を身につけるために、「人間科学基礎演習」（1年次、必修1単位）、「コミュニケーション基礎演習」（1年次、必修1単位）、「コミュニケーション基礎演習(1)」（3年次、必修2単位）、「コミュニケーション基礎演習(2)」（4年次、必修2単位）を設置する。
4. 学生が、コミュニケーションに存在する多様化・深刻化しつつある生活問題・福祉課題を把握し、人間科学的および学際的な視点・研究方法を用いて問題・課題解決を提案し、専門的で高度なコミュニケーション力を用いて福祉的支援とコミュニケーション形成を実践できるように、「演習科目」および「学科展開科目」にある「ソーシャルワーマン実践科目」や「ソーシャルワーカー実践科目」などの演習・実習科目を設置する。
5. 学生が、個人・集団・地域社会に対して専門的に働きかける能力を持てるよう、上述の演習・実習科目の他、学内外で展開される社会福祉の現場を体験する機会を設ける。具体的には、在学中にボランティア活動や現場見学などの体験を行うことで、コミュニケーション形成に必要な思考力・実践力を身につけさせる。

1 卒業要件単位数（詳細）

			現代子ども	多元心理	コミュニティ 福祉		
卒業要件			128	128	128		
共通教育科目			30	30	30		
必修	金城アイデンティティ科目	①キリスト教	キリスト教学(1)	2	2		
			キリスト教学(2)	2	2		
	⑤英語教育科目		英語コミュニケーションA(1)	1	1		
			英語コミュニケーションA(2)	1	1		
			英語コミュニケーションB(1)	1	1		
			英語コミュニケーションB(2)	1	1		
			英語コミュニケーションC(1)	1	1		
			英語コミュニケーションC(2)	1	1		
			英語コミュニケーションD(1)	1	1		
			英語コミュニケーションD(2)	1	1		
選択必修	金城アイデンティティ科目	①キリスト教 ②女性 ③国際理解	情報リテラシー	2	2		
			キャリア開発A	2	2		
			キャリア開発B	1	1		
	④教養科目 ⑥外国語教育科目 ⑦情報教育科目（「情報リテラシー」、「IT活用H」を除く） ⑧キャリア開発教育科目（「キャリア開発A」、「キャリア開発B」を除く） ⑩海外研修科目 ⑪学生プロジェクト科目 ⑨S & E教育科目から2科目選択（「スポーツ・アンド・エクササイズH」を除く）	①～③の3テーマから2科目選択 (キリスト教学(1)(2)を除く)	4	4	4		
				7	7		
				7	7		
				7	7		
				7	7		
				7	7		
				7	7		
専門教育科目			70	72	70		
学部共通科目			6	6	6		
学科基礎科目			8	16	7		
学科展開科目			49	2	45		
ユニット履修（多元心理学科）		メイン・ユニット		16			
		サブ・ユニット		24			
				—			
卒業論文・卒業制作・ソーシャルワーカー関連科目				6			
演習科目			7	8	6		
資格関連科目			—	—	—		
自由履修			28	26	28		

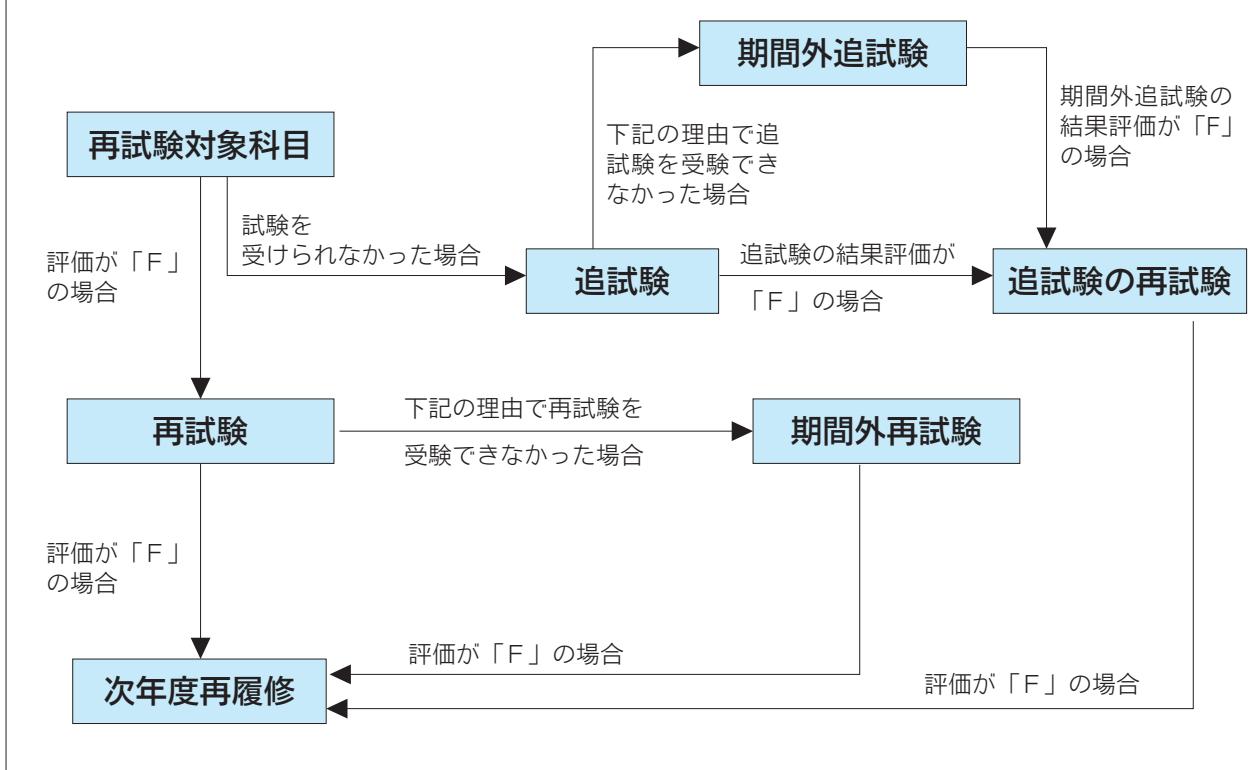
※現代子ども学科を卒業するためには原則として、幼稚園教諭一種免許状または小学校教諭一種免許状を得るのに必要な科目および単位を修得する必要があります。

1 現代子ども学科 再試験・追試験制度について

現代子ども学科では、幼稚園教諭一種免許状、保育士課程、小学校教諭一種免許状に関わる必修科目（ただし専門教育科目のみ。保育実習A・B・C・D、幼稚園教育実習A・B、小学校教育実習は対象外）について、評価が「F」であった場合、各期再試験を実施します。また追試験においても、同様に再試験を実施します。

再試験実施までの日程は履修要覧別冊の教務関係事項スケジュール表で確認してください。

【再試験フローチャート】



★各期試験の評価が「F」の学生は、全員再試験受験対象者となります。

★再試験対象者と再試験時間割は、K-PORTで発表します。

★各期再試験の評価が「F」の場合、その科目は次年度再履修となります。

★卒業年度に限り、前期再試験の評価が「F」の科目は、4年次対象再試験制度の対象となります。
(4年次対象再試験についてはP. 大学13参照)

★再試験（追試験の再試験、期間外再試験を含む）受験のための手続き（試験料納入方法を含む）については、K-PORTで通知します。

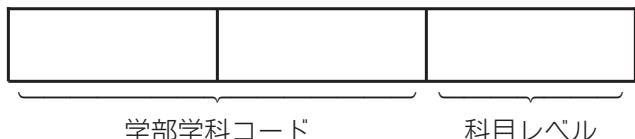
★再試験料 1科目につき、3,000円

★期間外再試験、期間外追試験

再（追）試験対象者であったが忌引き、病気、怪我、事故（自家用車による通学での事故等は認められない）その他学科が正当と認める理由により再（追）試験を受験できなかった学生で、期間外再試験時間割発表日の2週間前までに手続きを行った者が対象です。ただし、後期期間外再試験については後期期間外再試験時間割発表日の1週間前までに手続きを行った者が対象です。

1 科目分類番号について

科目分類番号は数字3桁でカリキュラムにおける当該科目の位置づけを示したものです。
履修の際の参考にしてください。



学部学科コード

共通教育：10

人間科学部共通：60

現代子ども学科：61

多元心理学科：63

コミュニティ福祉学科：66

科目レベル

入門：1 科目内容レベルが導入もしくは入門に位置づけられる科目

基礎：2 主に基礎として学ぶべき科目等

発展：3 応用や発展の内容を含む科目等

※科目分類番号と開講基準年次は違います。例えば3桁目のレベルが3に設定されても、開講基準年次が1年次に設定されれば1年生でも履修できます。反対にレベルが1や2に設定されても開講基準年次が3年次になっていれば1・2年生は履修することができません。

1 共通教育科目等 課程表

科目名の★は必修、■は選択必修

I 建学の精神を学ぶ科目（金城アイデンティティ科目）

科目区分	授業科目	副題・内容	科目分類番号				開講基準年次及び単位数
			1年	2年	3年	4年	
① キリスト教	キリスト教学(1)★	建学の精神であるキリスト教と聖書の世界について学ぶ	101	2			
	キリスト教学(2)★		101	2			
	聖書の読み方■	「聖書」の執筆者、書かれた目的、内容を学ぶ	101	2			
	聖書の女性観■	聖書における女性の描き方を通して女性観を学ぶ	101	2			
	キリスト教と日本■	日本におけるキリスト教の歴史と現代事情を学ぶ	101	2			
	現代世界とキリスト教■	世界各地域のキリスト教事情を学ぶ	101	2			
	医療とキリスト教精神■	医療従事者から医療とキリスト教の精神の関係を学ぶ	101	2			
	福祉とキリスト教■	福祉の各分野とキリスト教の関わりについて学ぶ	101	2			
	キリスト教文化学入門■	中世のキリスト教が生み出した祝祭日の歴史を学ぶ	101	2			
	音楽とキリスト教■	理論・解説と実践・歌唱により、賛美歌を多面的に学ぶ	101	2			
	美術とキリスト教■	キリスト教と西洋美術の関わりについて学ぶ	101	2			
	文学とキリスト教■	文学への影響、また聖書の邦訳の問題について学ぶ	101	2			
② 女性	いのち・こころ■	誕生から死まで、困難をバネに積極的に生きることを考える	101	2			
	歴史の中の女性■	19世紀の英國と米国の歴史に登場する女性について学ぶ	101	2			
	世界の女性問題■	国際社会における女性の人権について考える	101	2			
	福祉と女性■	女性が抱える社会福祉の問題を通して生き方を考える	101	2			
	女性と文学■	文学や映画に登場する女性を新たな視点から考察する	101	2			
	男女共同参画社会■	従来の男女観、国際比較等から日本女性の状況を考える	101	2			
	性差の科学■	ジェンダーと人間行動・偏見・コミュニケーションを学ぶ	101	2			

科目区分	授業科目	副題・内容	科目分類番号	開講基準年次及び単位数			
				1年	2年	3年	4年
③国際理解	現代世界の形成 ■	第二次世界大戦後の世界と今日の国際情勢について学ぶ	101	2			
	世界の多様な文化 ■	異なる地域に住む人々の社会や文化、宗教的背景を学ぶ	101	2			
	世界の社会問題 ■	日本を取り巻く国際情勢とその問題について学ぶ	101	2			
	多文化共生社会 ■	多民族・多文化共生社会の実現について考える	101	2			
	Topics in Comparative Culture ■	外国と比較した日本文化を基本的な英語で学ぶ	101	2			
	英語圏の生活と文化 ■	英語圏の地理、歴史、文化、生活について学ぶ	101	2			
	ヨーロッパの生活と文化 ■	今日のヨーロッパ社会とそこで暮らす人々について学ぶ	101	2			
	アジアの生活と文化 ■	中国、日本、朝鮮半島の生活や文化からその影響と交流を学ぶ	101	2			
	異文化コミュニケーション ■	異文化間で起こる様々な問題を解決する能力を培う	101	2			
	海外留学準備講座 ■	留学への心構えや留学先の文化・社会的背景を学ぶ	101	1			

II 現代社会の教養の基礎となる科目

*「大学での学び」は高大接続連携授業において履修する科目であり、入学後の履修はできません。

科目 区分	授 業 科 目	副 題 ・ 内 容	科 目 分 類 番 号	開講基準年次及び単位数			
				1年	2年	3年	4年
A・Life ④教養科目	東 洋 哲 学 ■	現代日本と東洋の伝統思想	101	2			
	西 洋 哲 学 ■	生きることを考える哲学	101	2			
	倫 理 学 ■	現代社会における倫理	101	2			
	い の ち の 倫 理 現子・多元・コミ福は履修不可 ■	いのちを生かす倫理学	101	2			
	健 康 科 学 ■	健康管理のキーポイントを探る	101	2			
	心 理 学 ■	こころの動きを理解する	101	2			
	人 間 発 達 学 ■	発達の筋道を学ぶ	101	2			
	カウンセリング入門 ■	心の問題理解とその援助法	101	2			
	ロジカルシンキング入門 ■	問題解決の方法を考える	101	2			
	教 職 入 門 ■	教職の意義と役割を理解する	101	2			
	学校と教育の歴史 ■	教育の歴史と思想を探る	101	2			
	発 達 と 学 習 ■	子どもの発達と学習過程を捉える	101	2			
	教 育 相 談 ■	学校における心のケアを考える	101	2			
	大 学 で の 学 び ※履修不可 ■	高大接続連携授業	-	1			
B・Nature	生 命 科 学 ■	いのちの謎にせまる	101	2			
	生 物 学 ■	動物の行動を科学する	101	2			
	環 境 学 ■	環境問題入門	101	2			
	薬 学 ■	くすりと体を科学する	101	2			
	健康とサプリメント ■	サプリメント利用の豆知識	101	2			
	化 粧 品 学 入 門 ■	化粧品まるわかり	101	2			
	食 品 栄 養 学 ■	食品の栄養素を学ぶ	101	2			
	生 活 と 科 学 ■	生活習慣（生活環境）と病気の関係を知る	101	2			
	生 活 と 衣 服 ■	衣服まるわかり	101	2			
	生 活 と 住 ま い ■	住まい方を考える	101	2			
	数 学 ■	数学基礎入門	101	2			
	統 計 学 ■	統計まるわかり	101	2			
	情 報 学 ■	情報まるわかり	101	2			

科目区分	授業科目	副題・内容	科目分類番号	開講基準年次及び単位数			
				1年	2年	3年	4年
④教養科目 C・Culture	文化人類学 ■	人類の多様な生活と文化	101	2			
	日本文化論 ■	サブカルチャーから学ぶ日本文化	101	2			
	日本文学論 ■	「少女」の眼から見る近現代日本文学	101	2			
	日本史入門 ■	エピソードで学ぶ日本史	101	2			
	日本地理 ■ 多元は履修不可	47都道府県を探訪する	101	2			
	日本語学 ■	日本語を振り返ってみよう	101	2			
	実践日本語 ■	文章と文書の書き方	101	2			
	日本美術史 ■	日本美術鑑賞入門	101	2			
	Topics in Contemporary Japan ■	英語で学ぶ現代日本の諸問題	101	2			
	西洋文学論 ■	西洋文学に見るロマンス	101	2			
	西洋史入門 ■	エピソードで学ぶ西洋史	101	2			
	西洋美術史 ■	西洋美術鑑賞入門	101	2			
D・Society	ファンクションの歴史 ■	デザインの変遷とビジネスの関係	101	2			
	美術創作 ■	静物デッサン入門	101	1			
	法学入門 ■	法律と人権を学ぶ	101	2			
	日本国憲法 ■	憲法を理解する	101	2			
	政治学入門 ■ 多元は履修不可	政治の仕組みを知る	101	2			
	行政学入門 ■	行政と公務員の役割を学ぶ	101	2			
	経済学入門 ■	お金の動きを知る	101	2			
	経営学入門 ■	ビジネスの基礎を学ぶ	101	2			
	マーケティング入門 ■	ヒット商品のつくり方を学ぶ	101	2			
	消費者と市民社会 ■	消費行動を通して社会を変える	101	2			

III 現代社会に必要なリテラシーを身につける科目

※修得単位について…⑤英語教育科目における英語コミュニケーションE～G、実践ビジネス英語A～E、海外ビジネス研修の修得単位については、自由履修の単位に含まれます。

⑥外国語教育科目における、英語英米文化学科生の必要最低修得単位（8単位）を越えて修得した単位については、自由履修の単位に含まれます。

科目区分	授業科目	副題・内容	科目分類番号	開講基準年次及び単位数			
				1年	2年	3年	4年
⑤英語教育科目	英語コミュニケーションA(1) ★	Speaking・Writing	101	1			
	英語コミュニケーションA(2) ★	Speaking・Writing	101	1			
	英語コミュニケーションB(1) ★	CALL・Reading	101	1			
	英語コミュニケーションB(2) ★	CALL・Reading	101	1			
	英語コミュニケーションC(1) ★	Speaking・Presentation	102		1		
	英語コミュニケーションC(2) ★	Speaking・Presentation	102		1		
	英語コミュニケーションD(1) ★	Reading・Listening	102		1		
	英語コミュニケーションD(2) ★	Reading・Listening	102		1		
	英語コミュニケーションE(1)	Integrated English (総合英語)	103		1		
	英語コミュニケーションE(2)	Integrated English (総合英語)	103		1		
	英語コミュニケーションF	検定試験対策 (TOEIC対策)	103		1		
	英語コミュニケーションG	検定試験対策 (TOEIC対策)	103		1		
	実践ビジネス英語 A 選抜者以外は履修不可	TOEIC L&R 550 以上を目指す	103	1			
	実践ビジネス英語 B 選抜者以外は履修不可	TOEIC L&R 600 以上を目指す	103	1			
	実践ビジネス英語 C 選抜者以外は履修不可	TOEIC L&R 650 以上を目指す	103		1		
	実践ビジネス英語 D 選抜者以外は履修不可	TOEIC L&R 700 以上を目指す	103			1	
	実践ビジネス英語 E 選抜者以外は履修不可	英語のレポート作成方法を学ぶ	103				1
	海外ビジネス研修 選抜者以外は履修不可	カナダでビジネスコミュニケーションを学ぶ	103		1		
⑥外国語教育科目	ドイツ語 (1) ■	初級1(主として日本人教員による文法・読解の授業)	101	1			
	ドイツ語 (2) ■	初級2(主として日本人教員による文法・読解の授業)	101	1			
	ドイツ語 (3) ■	中級1(主として日本人教員による文法・読解の授業)	102		1		
	ドイツ語 (4) ■	中級2(主として日本人教員による文法・読解の授業)	102		1		

科目区分	授業科目	副題・内容	科目分類番号	開講基準年次及び単位数			
				1年	2年	3年	4年
⑥ 外国語教育科目	ドイツ語会話(1)	初級1(主として外国人教員による会話の授業)	101	1			
	ドイツ語会話(2)	初級2(主として外国人教員による会話の授業)	101	1			
	ドイツ語会話(3)	中級1(主として外国人教員による会話の授業)	102		1		
	ドイツ語会話(4)	中級2(主として外国人教員による会話の授業)	102		1		
	フランス語(1)	初級1(主として日本人教員による文法・読解の授業)	101	1			
	フランス語(2)	初級2(主として日本人教員による文法・読解の授業)	101	1			
	フランス語(3)	中級1(主として日本人教員による文法・読解の授業)	102		1		
	フランス語(4)	中級2(主として日本人教員による文法・読解の授業)	102		1		
	フランス語会話(1)	初級1(主として外国人教員による会話の授業)	101	1			
	フランス語会話(2)	初級2(主として外国人教員による会話の授業)	101	1			
	フランス語会話(3)	中級1(主として外国人教員による会話の授業)	102		1		
	フランス語会話(4)	中級2(主として外国人教員による会話の授業)	102		1		
	スペイン語(1)	初級1(主として日本人教員による文法・読解の授業)	101	1			
	スペイン語(2)	初級2(主として日本人教員による文法・読解の授業)	101	1			
	スペイン語(3)	中級1(主として日本人教員による文法・読解の授業)	102		1		
	スペイン語(4)	中級2(主として日本人教員による文法・読解の授業)	102		1		
	スペイン語会話(1)	初級1(主として外国人教員による会話の授業)	101	1			
	スペイン語会話(2)	初級2(主として外国人教員による会話の授業)	101	1			
	スペイン語会話(3)	中級1(主として外国人教員による会話の授業)	102		1		
	スペイン語会話(4)	中級2(主として外国人教員による会話の授業)	102		1		
	中国語(1)	初級1(主として日本人教員による文法・読解の授業)	101	1			
	中国語(2)	初級2(主として日本人教員による文法・読解の授業)	101	1			
	中国語(3)	中級1(主として日本人教員による文法・読解の授業)	102		1		
	中国語(4)	中級2(主として日本人教員による文法・読解の授業)	102		1		
	中国語会話(1)	初級1(主として外国人教員による会話の授業)	101	1			
	中国語会話(2)	初級2(主として外国人教員による会話の授業)	101	1			
	中国語会話(3)	中級1(主として外国人教員による会話の授業)	102		1		
	中国語会話(4)	中級2(主として外国人教員による会話の授業)	102		1		

科目区分	授業科目	副題・内容	科目分類番号	開講基準年次及び単位数			
				1年	2年	3年	4年
⑥ 外国語教育科目	韓国・朝鮮語(1) ■	初級1(主として日本人教員による文法・読解の授業)	101	1			
	韓国・朝鮮語(2) ■	初級2(主として日本人教員による文法・読解の授業)	101	1			
	韓国・朝鮮語(3) ■	中級1(主として日本人教員による文法・読解の授業)	102		1		
	韓国・朝鮮語(4) ■	中級2(主として日本人教員による文法・読解の授業)	102		1		
	韓国・朝鮮語会話(1) ■	初級1(主として外国人教員による会話の授業)	101	1			
	韓国・朝鮮語会話(2) ■	初級2(主として外国人教員による会話の授業)	101	1			
	韓国・朝鮮語会話(3) ■	中級1(主として外国人教員による会話の授業)	102		1		
	韓国・朝鮮語会話(4) ■	中級2(主として外国人教員による会話の授業)	102		1		
⑦ 情報教育科目	情報リテラシー★	コンピュータ力を身につける	101	2			
	IT活用A ■	3次元コンピュータ・グラフィックス	102	2			
	IT活用B ■	動画作成編集	102	2			
	IT活用C ■	プログラミング入門	102	2			
	IT活用D ■	Webページデザイン	102	2			
	IT活用E ■	コンピュータ統計入門	102	2			
	IT活用F ■	デスクトップ・パブリッシング	102	2			
	IT活用G ■	コンピュータ・デザイン	102	2			
	IT活用H 現子・多元・コミ福は履修不可	コンピュータと薬学	102	2			
⑧ キャリア開発教育科目	キャリア開発A★	キャリア開発の意義と方法	101	2			
	キャリア開発B★	マナー&コミュニケーション	101	1			
	キャリア開発C ■	自分らしい生き方を設計する	102		2		
	キャリア開発D ■	いきいき働く女性たち	102		2		
	キャリア開発E ■	大企業のトップに学ぶキャリアの本当の意味	103			2	
	キャリア開発F ■	将来の職業生活に備える	103			2	
	キャリア開発G(1) ■	インターンシップ準備	102		2		
	キャリア開発G(2) ■	インターンシップ	103			2	

IV スポーツを通じて健康増進を図る科目

※修得単位について…⑨S & E教育科目における「スポーツ・アンド・エクササイズH」の修得単位については、自由履修の単位に含まれます。

科目区分	授業科目	副題・内容	科目分類番号				開講基準年次及び単位数			
			1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年
⑨ S & E 教育科目	スポーツ・アンド・エクササイズA ■	テニス	101		1					
	スポーツ・アンド・エクササイズB ■	ゴルフ	101		1					
	スポーツ・アンド・エクササイズC ■	バドミントン	101		1					
	スポーツ・アンド・エクササイズD ■	卓球	101		1					
	スポーツ・アンド・エクササイズE ■	バレー・ポール	101		1					
	スポーツ・アンド・エクササイズF ■	ライトスポーツ	101		1					
	スポーツ・アンド・エクササイズG ■	野外スポーツ実習	101		1					
	スポーツ・アンド・エクササイズH	ヘルシーエクササイズ	102							1

V 実践から学ぶ科目

科目区分	授業科目	副題・内容	科目分類番号				開講基準年次及び単位数			
			1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年
⑩ 海外研修科目	海外研修 A ■	北米での学習プログラム	103		2					
	海外研修 B ■	イギリスでの学習プログラム	103		2					
	海外研修 C ■	オーストラリアでの学習プログラム	103		2					
	海外研修 D ■	中国での学習プログラム	103		2					
	海外研修 E ■	海外のあらゆる地域での学習プログラム	103		2					
⑪ 学生プロジェクト科目	キャリアプロジェクト ■	社会に参加する	103		2					
	里山プロジェクト ■	里山から見る日本の姿	103		2					
	KIDSセンタープロジェクト ■	KIDSセンター活動に参加する	103		2					
	ボランティアプロジェクト ■	ボランティアを実践する	103		2					
	公募プロジェクト ■	慰問演奏を行おう	103		2					

教職に関する科目（中・高・栄養免許）

授業科目	科目分類番号	開講基準年次及び単位数			
		1年	2年	3年	4年
教職入門	101	2			
学校と教育の歴史	101	2			
発達と学習	101	2			
教育制度論	102		2		
障害者教育論	102		2		
教育課程論	102			2	
国語科指導法A	102		4		
国語科指導法B	102			2	
国語科指導法C	102			2	
英語科指導法A	102		4		
英語科指導法B	102			2	
英語科指導法C	102			2	
家庭科指導法A	102		4		
家庭科指導法B	102			2	
家庭科指導法C	102			2	
社会科・地理歴史科指導法A	102		2		
社会科・地理歴史科指導法B	102			2	
社会科・公民科指導法A	102		2		
社会科・公民科指導法B	102			2	
情報科指導法	102		4		
福祉科指導法	102		4		
書道科指導法	102		4		
音楽科指導法A	102		4		
音楽科指導法B	102			2	
音楽科指導法C	102			2	

授業科目	科目分類番号	開講基準年次及び単位数			
		1年	2年	3年	4年
理科指導法A	102		4		
理科指導法B	102			2	
理科指導法C	102			2	
道徳教育の理論と方法	102			2	
特別活動の指導法	102			2	
教育方法の理論と実践	102		2		
教育の方針と技術 (情報機器及び教材の活用を含む)	102		2		
生徒指導の理論と方法	102			2	
教育相談	101		2		
教育実習A	103				5
教育実習B	103				3
教職実践演習(中高)	103				2
教職実践演習(栄養教諭)	103				2

日本語科目・日本事情に関する科目

外国人留学生以外、履修不可

科目区分	授業科目	科目分類番号	単位数
日本語科目	日本語 2 1 1	102	1
	日本語 2 1 2	102	1
	日本語 2 1 3	102	1
	日本語 2 1 4	102	1
	日本語 2 1 5	102	1
	日本語 2 2 1	102	1
	日本語 2 2 2	102	1
	日本語 2 2 3	102	1
	日本語 2 2 4	102	1
	日本語 2 2 5	102	1
	日本語 3 1 1	103	1
	日本語 3 1 2	103	1
	日本語 3 1 3	103	1
	日本語 3 1 4	103	1
	日本語 3 1 5	103	1
	日本語 3 2 1	103	1
	日本語 3 2 2	103	1
	日本語 3 2 3	103	1
	日本語 3 2 4	103	1
	日本語 3 2 5	103	1
	日本語 4 1 1	103	1
	日本語 4 1 2	103	1
	日本語 4 2 1	103	1
	日本語 4 2 2	103	1

科目区分	授業科目	科目分類番号	単位数
日本事情に関する科目	日本事情 A	102	2
	日本事情 B	102	2
	日本事情 C	102	2
	日本事情 D	102	2
	インディペンデント・スタディ	103	2

1 カリキュラム・ツリー

カリキュラム・ツリーとは、専門教育科目のカリキュラムにおいて、学生が卒業までに身につけるべき知識・能力を得るために授業科目が、どのように配置されているか、各授業科目の関連性を系統的に可視化したもので、カリキュラムの年次進行、授業科目間のつながりなど、カリキュラムの体系性が一望できるようになっています。

現代子ども学科

青字は必修科目

	1年	2年	3年	4年
学部共通科目	現代子ども学概論 人間科学概論 生命倫理 心理学概論 社会福祉概論(1) 現代社会問題			
学科基礎科目	幼児教育学 生涯学習論 生涯発達心理学概論 子ども発達援助論	教育人間学		
幼一種免 関連科目	子ども体育A 図画工作A・B 音楽A・B 保育内容(環境A・B) 教育課程計画法 幼小連携論	音楽C 保育内容(言葉) 保育内容(健康) 保育内容(環境A・B) 保育内容(表現・音楽A・B) 保育内容(表現・美術A・B) 保育内容(人間関係) 子ども文化論A 幼児教育指導法 教育方法論 教育者論	児童文学(演習) 子ども文化論B(演習) 子ども体育B(演習) 発達美術論(演習) 音楽D 保育内容総論 教育原論 発達心理学 子ども理解と発達相談 幼稚園教育実習A	幼稚園教育実習法 幼稚園教育実習B
保育士資格 関連科目	乳幼児期発達心理学(演習) 乳児保育 保育原理 社会福祉	児童家庭福祉 社会の養護内容 子どもの食と栄養 保育課程論 社会的養護 障害児保育 子どもの保健A・B 子どもの保健C(演習) 保育実習指導A・C 保育実習A・C 保育実践演習	相談援助 保育者論 家族支援論 保育相談支援 保育実習指導B 保育実習B	保育実習指導D 保育実習D
学科展開科目・ 資格関連科目	子ども体育A 図画工作A・B 音楽A・B 小学校英語	音楽C 道徳教育の方法(初等) 算数科研究 理科研究 子ども文化論A	国語科研究 生活科研究 音楽科研究 図画工作研究 体育科研究 社会科研究 家庭科研究 算数科教育法 国語科教育法 生活科教育法 音楽科教育法 図画工作教育法 体育科教育法 社会科教育法 家庭科教育法 理科教育法	特別活動の研究(初等) 生徒指導の研究(初等) 小学校英語教育法 特別支援教育論 教職実践演習(幼小中) 視聴覚教育 小学校教育実習法 小学校教育実習
関中連一 科目種 目免		英語学概論 英語音声学(1) 英語コミュニケーションの技法A・B コミュニケーション英文法(1)(2) 英語コミュニケーション論 比較文化論	英米文学入門 英語コミュニケーションの技法C~F 英語音声学(2)	英語コミュニケーションの技法G・H
		乳幼児期発達心理学 保育・教職演習A・B	教育心理学実験A・B 教育心理学測定法 学習心理学 児童・青年期発達心理学 精神保健 障害者教育論 認知心理学 臨床心理学概論 人格心理学 障害児発達論 障害児援助論 教育心理学研究法 外国人幼児児童教育論 遊戯療法 保育・教職演習A・B	キリスト教教育学 神経心理学 生理心理学 家族社会学 児童・青年精神医学
演習科目	人間科学基礎演習	子ども学基礎演習	現代子ども学演習(1)	現代子ども学演習(2)
卒業論文				卒業論文

※1 複数の資格に関わる一部の科目については、複数の資格関連科目欄に重複して記載はせず、1つの資格関連科目欄に記載をしています。

※2 現代子ども学科 専門教育科目のみ記載をしています。

履修方法の詳細につきましては、課程表を参照してください。

多元心理学科

青字は必修科目
(*)はユニット必修科目

		1年	2年	3年	4年
学部共通科目		人間科学概論 生命倫理 現代子ども学概論 心理学概論 社会福祉概論(1) 現代社会問題			
学科基礎科目		多元心理学入門 社会学概論	心理学統計法 心理学研究法 心理学実験A・B データ解析法 A・B 社会調査の設計と技法	心理学実験演習C	多元心理学総論
学科展開科目	社会心理学 ユニット	社会心理学概論(*) 社会調査論	社会・集団・家族心理学 コミュニティ社会心理学 実験社会心理学	態度変容論 メディア心理学 先端社会心理学 司法・犯罪心理学 交通心理学	
	健康心理学 ユニット	健康心理学概論(*) 人間関係論	生理心理学（神経・生理心理学A） 知覚・認知心理学 生涯発達心理学概論 ストレスマネージメント 生涯スポーツ心理学	音楽心理学 ポジティブ心理学 健康・医療心理学 健康栄養学	
	キャリア 心理学 ユニット	キャリア心理学概論(*)	キャリア・カウンセリング キャリア・カウンセリング演習 産業心理学（産業・組織心理学A） リーダーシップ論	産業カウンセリング 産業カウンセリング演習 組織心理学（産業・組織心理学B） 経営心理学 ヒューマン・リソース・マネジメント	
	臨床心理学 ユニット	臨床心理学概論(*)	カウンセリング論 心理療法論（心理学的支援法A） 遊戯療法 認知行動療法 感情・人格心理学 心理的アセスメント	心理演習 イメージ表現療法 精神分析学 投射法	
	発達教育 心理学 ユニット	教育心理学 発達心理学(*)	障害者・障害児心理学 発達臨床心理学	教育・学校心理学 学校カウンセリング 特別支援教育と障害児援助（心理学的支援法B） 学習・言語心理学 児童福祉 福祉心理学	
	医療福祉 心理学 ユニット	精神疾患とその治療(1)・(2)(*)	医学概論（人体の構造と機能及び疾病） 精神保健の課題と支援(1)・(2)	神経心理学（神経・生理心理学B） 精神病理学 精神保健福祉の理論と相談援助の展開C・D 精神保健福祉に関する制度とサービス(1)(関係行政論) 精神保健福祉に関する制度とサービス(2) 精神障害者の生活支援システム	
演習科目		人間科学基礎演習	多元心理学基礎演習	多元心理学演習(1)	多元心理学演習(2)
卒業論文					卒業論文
資格関連科目		世界のすがた・日本のすがた（地誌） 地理学 地域からみる世界の動き（地域社会研究）	社会福祉概論(2) 相談援助の基盤と専門職 精神科ソーシャルワーク論 精神保健福祉の理論と相談援助の展開A・B 精神保健福祉援助演習(1) 障害者福祉論 日本史 外国史	精神保健福祉援助演習(2) 精神保健福祉援助実習事前指導 医療福祉論 社会保障論 権利擁護と成年後見 公的扶助論 地域福祉論(1)・(2) 公認心理師の職責 心理実習(1)	精神保健福祉援助演習(3) 精神保健福祉援助実習事後指導(1)・(2) 精神保健福祉援助実習 福祉行政論と福祉計画 心理実習(2)

コミュニティ福祉学科

青字は必修科目

	1年	2年	3年	4年
学部共通科目	人間科学概論 生命倫理 現代子ども学概論 心理学概論 社会福祉概論(1) 現代社会問題			
学科基礎科目	コミュニケーション ソーシャルワーマン総論 社会福祉援助技術論(1) 相談援助演習(1)			
学科展開科目	実践ソーシャルワーマン を養う科目 を社会そぞう力	障害者スポーツ論 ソーシャルワーマンプロジェクトA・B ソーシャルワーマンプロジェクトC(1)・C(2) 相談援助実習指導(1)・(2) 手話(1)・(2)	ソーシャルワーマンプロジェクトC(3) ソーシャルワーマンプロジェクトD(1)・D(2)	
	協働実現力	社会学概論 心理学概説 グローバル社会論 社会調査論 生涯スポーツ心理学	スポーツと社会 CSR論 ファンドレイジング演習 マイノリティと社会 ライフコース論	
	問題解決能力	地域社会入門 スポーツと福祉 協同組合論 地域福祉論(1)・(2) 障害者教育論 NPO・NGO論 コミュニティ社会心理学	ワークショップとファシリテーション 福祉行政と福祉計画 居住福祉論	
	社会福祉科目専門力	現代の若者と女性 女性起業論 ソーシャルマーケティング論 リハビリテーションとトレーニング 社会保障論 医学概論 ソーシャルビジネス論A・B リーダーシップ論	ソーシャルイノベーション論 福祉サービスの組織と経営	
	社会福祉科目専門力	社会福祉概論(2) 老人福祉論 公的扶助論 就労支援サービス 介護福祉論 児童福祉論 障害者福祉論 相談援助の基盤と専門職 社会福祉援助技術論(2)・(3) 子ども発達援助論 社会的養護	権利擁護と成年後見 司法福祉 医療福祉論 社会福祉援助技術論(4) 精神疾患とその治療(1)・(2) 精神保健の課題と支援(1)・(2) 精神科ソーシャルワーク論	
	実践科目 ソーシャルワーカー 力	相談援助演習(2)・(3)	相談援助演習(4) 相談援助実習指導(3)・(4) 相談援助実習 ソーシャルワーク特講A	相談援助演習(5)
卒業論文 ・ ソーシャル ワーカー 関連科目				卒業論文 ソーシャルワーク特講B・C ソーシャルワーク卒業研究
演習科目	人間科学基礎演習 コミュニケーション 社会福祉基礎演習		コミュニケーション 社会福祉演習(1)	コミュニケーション 社会福祉演習(2)

2 現代子ども学科 課程表

科目名の★印は必修

学部共通科目				
学部共通科目 合計 6 単位				
必修 2 単位 選択必修 4 单位 必修以外から 4 単位選択必修				
授業科目	科目分類番号	開講基準年次及び単位数 1年 2年 3年 4年		
人間科学概論	602	2		
生命倫理	602	2		
現代子ども学概論 ★	602	2		
心理学概論	602	2		
社会福祉概論(1)	602	2		
現代社会問題	602	2		

学科基礎科目				
学科基礎科目 8 単位選択必修				
授業科目	科目分類番号	開講基準年次及び単位数 1年 2年 3年 4年		
教育人間学	612	2		
幼児教育学	612	2		
生涯発達心理学概論	612	2		
生涯学習論	612	2		
子ども発達援助論	612	2		

学科展開科目				
学科展開科目+卒業論文 49単位選択必修 ■から 8 単位選択必修				
授業科目	科目分類番号	開講基準年次及び単位数 1年 2年 3年 4年		
教育原論	613	2		
視聴覚教育	613		2	
キリスト教教育学 ■	613			2

学科展開科目				
授業科目		科目分類番号	開講基準年次及び単位数 1年 2年 3年 4年	
教育と発達の分野	教育方法論	612	2	
	幼小連携論 ■	612	2	
	特別支援教育論 ■	613		2
	外国人幼児児童教育論	613		2
	教育心理学研究法 ■	613		2
	教育心理学実験 A	613		2
	教育心理学実験 B	613		2
	教育心理学測定法	613		2
	学習心理学 ■	613		2
	認知心理学 ■	613		2
このころの理解の分野	発達心理学	613		2
	人格心理学	613		2
	乳幼児期発達心理学 ■	612	2	
	児童・青年期発達心理学	613		2
	生理心理学	613		2
	神経心理学	613		2
	乳幼児期発達心理学(演習)	612	1	
	障害児保育	612	2	
	社会福祉	613	2	
	相談援助	613		2
家族と福祉の分野	児童家庭福祉	612	2	
	家族支援論	613		2
	家族社会学	613		2
	障害児援助論	613		2
	障害者教育論	613		2
	障害児発達論	613		2
	保育相談支援	613		1

学科展開科目		科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数			
授業科目			1年	2年	3年	4年
発達援助と健康の分野	臨床心理学概論	613		2		
	精神保健	613		2		
	児童・青年精神医学	613			2	
	子ども理解と発達相談	613		2		
	子どもの保健A	612		2		
	子どもの保健B	612		2		
	子どもの保健C(演習)	612		1		
	子ども体育A	612	2			
	子ども体育B(演習)	613		1		
	子どもの食と栄養	612		2		
遊戯療法		613		2		
保育の分野	社会的養護	612		2		
	社会的養護内容	612		1		
	保育原理	612	2			
	乳児保育	612	2			
	保育者論	613		2		
	保育課程論	612		2		
芸術と文化の分野	発達美術論(演習)	613		1		
	児童文学(演習)	613		1		
	子ども文化論A	612		2		
	子ども文化論B(演習)	613		1		
	音楽A	612	1			
	音楽B	612	1			
	音楽C	612		1		
	音楽D	613		1		
	図画工作A	612	1			
	図画工作B	612	1			

学科展開科目		科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数			
授業科目			1年	2年	3年	4年
資格関連	教育者論	612		2		
	教育課程計画法	612	2			
	保育実践演習	612		2		
	国語科研究	613		1		
	社会科研究	613		1		
	算数科研究	612		1		
	理科研究	612		1		
	生活科研究	613		1		
	音楽科研究	613		1		
	図画工作研究	613		1		
家庭科研究		613		1		
体育科研究		613		1		
道徳教育の方法(初等)		612		2		
特別活動の研究(初等)		613			2	
生徒指導の研究(初等)		613			2	
教職実践演習(幼小中)		613			2	
保育・教職演習A		612		2		
保育・教職演習B		612		2		
小学校英語		612	2			
小学校英語教育法		613			2	
英語学概論		612		2		
英語音声学(1)		612		2		
英語音声学(2)		613		2		
英米文学入門		613		2		
英語コミュニケーション論		612		2		
コミュニケーション英文法(1)		612		2		
コミュニケーション英文法(2)		612		2		

学科展開科目								
資格関連	授業科目	科目分類番号	開講基準年次及び単位数					
			1年	2年	3年	4年		
	英語コミュニケーションの技法A	612		1				
	英語コミュニケーションの技法B	612		1				
	英語コミュニケーションの技法C	613			1			
	英語コミュニケーションの技法D	613			1			
	英語コミュニケーションの技法E	613			1			
	英語コミュニケーションの技法F	613			1			
	英語コミュニケーションの技法G	613				1		
	英語コミュニケーションの技法H	613				1		
	比較文化論	612		2				

卒業論文								
授業科目	科目分類番号	開講基準年次及び単位数						
		1年	2年	3年	4年			
卒業論文・卒業制作	613					6		

演習								
演習 7単位必修								
授業科目	科目分類番号	開講基準年次及び単位数						
		1年	2年	3年	4年			
人間科学基礎演習★	611	2						
子ども学基礎演習★	612		1					
現代子ども学演習(1)★	613			2				
現代子ども学演習(2)★	613				2			

資格関連								
授業科目	科目分類番号	開講基準年次及び単位数						
		1年	2年	3年	4年			
保育内容総論	613			2				
保育内容(人間関係)	612		2					
保育内容(環境A)	612	1						
保育内容(環境B)	612	1						
保育内容(言葉)	612		2					
保育内容(健康)	612		2					

資格関連								
授業科目	科目分類番号	開講基準年次及び単位数						
		1年	2年	3年	4年			
保育内容(表現・音楽A)	612		1					
保育内容(表現・音楽B)	612		1					
保育内容(表現・美術A)	612		1					
保育内容(表現・美術B)	612		1					
幼児教育指導法	612		2					
国語科教育法	613		2					
社会科教育法	613		2					
算数科教育法	613		2					
理科教育法	613		2					
生活科教育法	613		2					
音楽科教育法	613		2					
図画工作教育法	613		2					
家庭科教育法	613		2					
体育科教育法	613		2					
保育実習指導A	612	1						
保育実習指導B	613		1					
保育実習指導C	612	1						
保育実習指導D	613				1			
保育実習A	612	2						
保育実習B	613		2					
保育実習C	612	2						
保育実習D	613				2			
幼稚園教育実習法	613				1			
小学校教育実習法	613				1			
幼稚園教育実習A	613		2					
幼稚園教育実習B	613				2			
小学校教育実習	613				4			

3 多元心理学科 課程表

科目名の★印は必修、☆はユニット必修

学部共通科目						
学部共通科目 合計 6 単位						
必 修		2 単位				
選択必修		4 単位				
必修以外から 4 単位選択必修						
授 業 科 目	科 目 分 類 番 号	開 講 基 準 年 次 及 び 単 位 数	1 年	2 年	3 年	4 年
人 間 科 学 概 論	601	2				
生 命 倫 理	601	2				
現 代 子 ど も 学 概 論	601	2				
心 理 学 概 論 ★	601	2				
社 会 福 祉 概 論 (1)	601	2				
現 代 社 会 問 題	601	2				

学科展開科目						
《ユニット履修》 合計42単位						
・ 6 ユニットのうち、メインユニットとしたひとつのユニットからユニット必修を含めた16単位						
・ 2 つのサブユニットからそれぞれのユニット必修を含めた12単位の合計24単位						
・ そのほかにすべてのユニットの中から 2 単位						
授 業 科 目	科 目 分 類 番 号	開 講 基 準 年 次 及 び 単 位 数	1 年	2 年	3 年	4 年
社会心理学概論 ☆	631	2				
社会・集団・家族心理学	632		2			
態度変容論	633			2		
コミュニティ社会心理学	632		2			
実験社会心理学	632		2			
社会調査論	631	2				
メディア心理学	633			2		
先端社会心理学	633			2		
司法・犯罪心理学	633			2		
交通心理学	633			2		
健康心理学ユニット	健 康 心 理 学 概 論 ☆	631	2			
	生理心理学 (神経・生理心理学 A)	632		2		
	音楽心理学	633		2		
	知覚・認知心理学	632		2		
	人間関係論	631	2			
	生涯発達心理学概論	632		2		
	ポジティブ心理学	633		2		
	ストレスマネージメント	632		2		
	健康・医療心理学	633		2		
	健康栄養学	633		2		
	生涯スポーツ心理学	632		2		

学科展開科目		科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数			
授業科目			1年	2年	3年	4年
キャリア心理学ユニット	キャリア心理学概論 ☆	631	2			
	キャリア・カウンセリング	632		2		
	キャリア・カウンセリング演習	632		2		
	産業心理学 (産業・組織心理学A)	632		2		
	産業カウンセリング	633			2	
	産業カウンセリング演習	633			2	
	組織心理学 (産業・組織心理学B)	633			2	
	経営心理学	633			2	
	リーダーシップ論	632		2		
臨床心理学ユニット	ヒューマン・リソース・マネジメント	633			2	
	臨床心理学概論 ☆	631	2			
	カウンセリング論	632		2		
	心理演習	633			2	
	心理療法論 (心理学的支援法A)	632		2		
	遊戯療法	632		2		
	認知行動療法	632		2		
	イメージ表現療法	633			2	
	感情・人格心理学	632		2		
	精神分析学	633			2	

学科展開科目		科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数			
授業科目			1年	2年	3年	4年
発達教育心理学ユニット	教育心理学	631	2			
	教育・学校心理学	632			2	
	学校カウンセリング	633			2	
	特別支援教育と障害児援助 (心理学的支援法B)	633			2	
	障害者・障害児心理学	632		2		
	発達心理学 ☆	631	2			
	学習・言語心理学	633			2	
	児童福祉	633			2	
	発達臨床心理学	632		2		
医療福祉心理学ユニット	福祉心理学	633			2	
	医学概論 (人体の構造と機能及び疾病)	632		2		
	精神疾患とその治療(1) ☆	631	2			
	精神疾患とその治療(2) ☆	631	2			
	精神保健の課題と支援(1)	632		2		
	精神保健の課題と支援(2)	632		2		
	神経心理学 (神経・生理心理学B)	633			2	
	精神病理学	633			2	
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開C	633			2	
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開D	633			2	

演習				
演習 8 单位必修				
授業科目	科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数		
		1年	2年	3年 4年
人間科学基礎演習 ★	631	2		
多元心理学基礎演習 ★	632		2	
多元心理学演習(1) ★	633			2
多元心理学演習(2) ★	633			2

卒業論文				
授業科目	科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数		
		1年	2年	3年 4年
卒業論文	633			6

資格関連科目				
授業科目	科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数		
		1年	2年	3年 4年
社会福祉概論(2)	632		2	
相談援助の基盤と専門職	632		4	
精神科ソーシャルワーク論	632		2	
精神保健福祉の理論と相談援助の展開A	632		2	
精神保健福祉の理論と相談援助の展開B	632		2	
精神保健福祉援助演習(1)	632		1	
精神保健福祉援助演習(2)	633			1
精神保健福祉援助演習(3)	633			1
精神保健福祉援助実習事前指導	633			1
精神保健福祉援助実習事後指導(1)	633			1
精神保健福祉援助実習事後指導(2)	633			1
精神保健福祉援助実習	633			3
医療福祉論	633		2	
社会保障論	633		4	
権利擁護と成年後見	633		2	
福祉行政財政と福祉計画	633			2
公的扶助論	633		2	
地域福祉論(1)	633		2	
地域福祉論(2)	633		2	
障害者福祉論	632		2	
公認心理師の職責	633		2	
心理実習(1)	633		1	
心理実習(2)	633			1
日本史	632		2	
外国史	632		2	
世界のすがた・日本のすがた(地誌)	631	2		
地理学	631	2		
地域からみる世界の動き(地域社会研究)	631	2		

4 コミュニティ福祉学科 課程表

科目名の★印は必修

学部共通科目					
学部共通科目 合計 6 単位					
必 修 2 単位					
選択必修 4 単位					
必修以外から 4 単位選択必修					
授 業 科 目	科 目 分 類 番 号	開講基準年次及び単位数			
		1年	2年	3年	4年
人 間 科 学 概 論	601	2			
生 命 倫 理	601	2			
現 代 子 ど も 学 概 論	601	2			
心 理 学 概 論	601	2			
社 会 福 祉 概 論 (1) ★	601	2			
現 代 社 会 問 題	601	2			

学科展開科目					
学科展開科目② 41単位選択必修					
授 業 科 目		科 目 分 類 番 号			
		1年	2年	3年	4年
ソーシャルワーマン実践科目	ソーシャルワーマンプロジェクトC(3)	663		3	
	ソーシャルワーマンプロジェクトD(1)	663		2	
	ソーシャルワーマンプロジェクトD(2)	663		2	
	手 話 (1)	661		2	
	手 話 (2)	662		2	
	障害者スポーツ論	661	2		
社会そつぞう力を養う科目	グローバル社会論	662		2	
	スポーツと社会	663		2	
	C S R 論	663		2	
	ファンドレイジング演習	663		1	
	社会学概論	661	2		
	社会調査論	662		2	
	心理学概説	661	2		
	マイノリティと社会	663		2	
	生涯スポーツ心理学	662		2	
	ライフコース論	663		2	

学科基礎科目					
学科基礎科目 7 単位必修					
授 業 科 目	科 目 分 類 番 号	開講基準年次及び単位数			
		1年	2年	3年	4年
コ ミ ュ ニ テ ィ 福 祉 論 ★	661	2			
ソーシャルワーマン総論 ★	661	2			
社 会 福 祉 援 助 技 術 論 (1) ★	662	2			
相 談 援 助 演 習 (1) ★	662	1			

学科展開科目					
学科展開科目① 2科目4単位を選択必修					
授 業 科 目		科 目 分 類 番 号			
		1年	2年	3年	4年
ソーシャルワーマン実践科目	ソーシャルワーマンプロジェクトA	662		2	
	ソーシャルワーマンプロジェクトB	662		2	
	ソーシャルワーマンプロジェクトC(1)	662		2	
	ソーシャルワーマンプロジェクトC(2)	662		2	
	相 談 援 助 実 習 指 導 (1)	662		2	
	相 談 援 助 実 習 指 導 (2)	662		2	

学科展開科目		科目分類番号				開講基準年次及び単位数			
授業科目		1年	2年	3年	4年				
協働実現力を養う科目	地域社会入門	661	2						
	協同組合論	662		2					
	ワークショップとファシリテーション	663			1				
	スポーツと福祉	661	2						
	地域福祉論(1)	662		2					
	地域福祉論(2)	662		2					
	障害者教育論	662		2					
	福祉行政財政と福祉計画	663			2				
	NPO・NGO論	662		2					
	コミュニティ社会心理学	662		2					
問題解決力を養う科目	居住福祉論	663			2				
	現代の若者と女性	661	2						
	女性起業論	661	2						
	ソーシャルマーケティング論	662		2					
	ソーシャルイノベーション論	663			2				
	リハビリテーションとトレーニング	663		2					
	社会保障論	662		4					
	医学概論	662		2					
	福祉サービスの組織と経営	663			2				
	ソーシャルビジネス論A	662		2					
ソーシャルワーカー実践科目	ソーシャルビジネス論B	662		2					
	リーダーシップ論	662		2					

学科展開科目		科目分類番号				開講基準年次及び単位数			
授業科目		1年	2年	3年	4年				
社会福祉専門力を養う科目	社会福祉概論(2)	662	2						
	公的扶助論	662		2					
	就労支援サービス	663		2					
	権利擁護と成年後見	663			2				
	司法福祉	663			2				
	医療福祉論	663			2				
	老人福祉論	662	2						
	介護福祉論	662		2					
	児童福祉論	662		2					
	障害者福祉論	662		2					
ソーシャルワーカー実践科目	相談援助の基盤と専門職	662			4				
	社会福祉援助技術論(2)	662		2					
	社会福祉援助技術論(3)	662		2					
	社会福祉援助技術論(4)	663			2				
	精神疾患とその治療(1)	663			2				
	精神疾患とその治療(2)	663			2				
	精神保健の課題と支援(1)	663			2				
	精神保健の課題と支援(2)	663			2				
	精神科ソーシャルワーク論	663			2				
	子ども発達援助論	662		2					
ソーシャルワーカー実践科目	社会的養護	662		2					
	相談援助演習(2)	662		1					
	相談援助演習(3)	662		1					
	相談援助演習(4)	663			1				
	相談援助演習(5)	663				1			
	相談援助実習指導(3)	663			2				
	相談援助実習指導(4)	663			2				
	相談援助実習	663			4				
	ソーシャルワーク特講A	663			2				

卒業論文・ソーシャルワーカー関連科目

「『ソーシャルワーク特講B（2単位）』+
 『ソーシャルワーク特講C（2単位）』+
 『ソーシャルワーク卒業研究（2単位）』= 計6単位
 もしくは「卒業論文（6単位）」の選択必修

授業科目	科目分類番号	開講基準年次及び単位数			
		1年	2年	3年	4年
ソーシャルワーク特講B	663				2
ソーシャルワーク特講C	663				2
ソーシャルワーク卒業研究	663				2
卒業論文	663				6

演習

演習 6単位必修

授業科目	科目分類番号	開講基準年次及び単位数			
		1年	2年	3年	4年
人間科学基礎演習★	662	1			
コミュニティ福祉基礎演習★	662	1			
コミュニティ福祉演習(1)★	663			2	
コミュニティ福祉演習(2)★	663				2

1 中高免教職課程について

[1] 教職課程とは？

中学校や高校で授業を行うためには教員免許状が必要です。その取得のために必要な科目を開講し、教職課程を設けています。教育職員免許法や教育職員免許法施行規則等に定められた単位を修得することで、卒業時に教員免許状を取得できます。

教職に関心がある学生は、1年次から「教科に関する科目」と「教職に関する科目」を履修してください。教職課程の申し込みは2年生の秋、教育実習の申し込みは3年生（薬学部は5年生）の春に行います。自信を持って教えられるように、教科と教職の両方の専門性を伸ばす努力をしてください。

本学の中高免教職課程を履修することにより授与される免許状の種類等は、次の通りです。私たち、中高免教職課程担当教員、職員は金城学院大学卒業生が一人でも多く、教育現場の教壇に立つことを願っています。

学 部	学 科	免許状の種類	免許教科
文学部	日本語日本文化学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	国 語 国 語 書 道
	英語英米文化学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	英 語 英 語
	外国語コミュニケーション学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	英 語 英 語
	音楽芸術学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	音 楽 音 楽
生活環境学部	生活マネジメント学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	家 庭 家 庭 情 報
	環境デザイン学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	家 庭 家 庭
	食環境栄養学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	家 庭 家 庭
国際情報学部	国際情報 学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	社 会 地理歴史 公 民
		メディアスタディーズコース	情 報
人間科学部	現代子ども学科	中学校教諭一種免許状	英 語
	多元心理学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	社 会 公 民
	コミュニティ福祉学科	高等学校教諭一種免許状	福 祉
薬学部	薬学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	理 科 理 科

[2] 教職課程の履修に必要な単位

教育職員免許状を取得するためには、基礎資格として学士の資格を有することが必要です。つまり、所定の単位を修得して本学を卒業することが前提となります。

その上で、教職課程の履修には教育職員免許法施行規則に定める、次の4種類の科目の修得が必要です。最低修得単位数は教育職員免許法施行規則に定められた最低修得単位数であり、本学で修得しなければならない単位数については後掲の表を参照してください。

免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	
	中一種	高一種
①教科に関する科目	2 0	2 0
②教職に関する科目	3 1	2 3
③教科又は教職に関する科目	8	1 6
④教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	8	8
合 計	6 7	6 7

1) 教科に関する科目

現代子ども学科

中一種免「英語」

免許法施行規則に定める科目区分 科 目	単位数	左記に対応する開設授業科目、開講基準年次及び単位数				
		必修科目		選択科目		
英語学	20	英語学概論	2年 2			
		英語音声学(1)	2年 2			
		英語音声学(2)	3年 2			
英米文学		英米文学入門	3年 2	* イギリス文学概論	2年 2	
				* アメリカ文学概論	2年 2	
英語コミュニケーション		英語コミュニケーション論	2年 2	コミュニケーション英文法(1)	2年 2	
		英語コミュニケーションの技法A	2年 1	コミュニケーション英文法(2)	2年 2	
		英語コミュニケーションの技法B	2年 1			
		英語コミュニケーションの技法C	3年 1			
		英語コミュニケーションの技法D	3年 1			
		英語コミュニケーションの技法E	3年 1			
		英語コミュニケーションの技法F	3年 1			
		英語コミュニケーションの技法G	4年 1			
		英語コミュニケーションの技法H	4年 1			
異文化理解		比較文化論	2年 2	* イギリス文化概論	2年 2	
				* アメリカ文化概論	2年 2	

* 英語英米文化学科開設科目。

多元心理学科

中一種免「社会」

免許法施行規則に定める科目区分		左記に対応する開設授業科目、開講基準年次及び単位数			
科 目	単位数	必修科目		選択科目	
20	日本史及び外国史	日本史	2年 2		
	地理学（地誌を含む。）	外国史	2年 2		
	「法律学、政治学」	地理学	1年 2	地域からみる世界の動き (地域社会研究)	1年 2
		世界のすがた・日本のすがた(地誌)	1年 2		
	「社会学、経済学」	※政治学（平和と暴力）	2年 2		
		法学入門	1～2年 2		
	「哲学、倫理学、宗教学」	日本国憲法	1～2年 2		
		社会学概論	1年 2	社会調査の設計と技法	2年 2
				メディア心理学	3年 2
				ヒューマン・リソース・マネジメント	3年 2
	東洋哲学	1～2年 2			
	西洋哲学	1～2年 2			
	倫理学	1～2年 2			

備考1：「日本国憲法」は「教免法施行規則第66条の6に定める科目」として必修。

また、教科に関する科目にも含められます。

備考2：※は国際情報学科開設科目

多元心理学科

高一種免「公民」

免許法施行規則に定める科目区分		左記に対応する開設授業科目、開講基準年次及び単位数			
科 目	単位数	必修科目		選択科目	
20	「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」	※政治学（平和と暴力）	2年 2		
		法学入門	1～2年 2		
	「社会学、経済学（国際経済を含む。）」	日本国憲法	1～2年 2		
		社会学概論	1年 2	社会調査の設計と技法	2年 2
				メディア心理学	3年 2
	「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	心理学概論	1年 2	組織心理学（産業・組織心理学B）	3年 2
		心理学実験A	2年 2	実験社会心理学	2年 2
		心理学実験B	2年 2	心理療法論（心理学の支援法A）	2年 2
		心理学研究法	2年 2		
		多元心理学基礎演習	2年 2		
		多元心理学入門	1年 2		

備考1：「日本国憲法」は「教免法施行規則第66条の6に定める科目」として必修。

また、教科に関する科目にも含められます。

備考2：※は国際情報学科開設科目

コミュニティ福祉学科

高一種免「福祉」

免許法施行規則に定める科目区分		左記に対応する開設授業科目、開講基準年次及び単位数			
科 目	単位数	必修科目	選択科目		
社会福祉学 (職業指導を含む。)	20	社会保障論	2年 4	社会福祉概論(1) 社会福祉概論(2)	1年 2 1年 2
		老人福祉論	1年 2		
		児童福祉論	2年 2		
		障害者福祉論	2年 2		
		社会福祉援助技術論(1)	1年 2	社会福祉援助技術論(2)	2年 2
		介護福祉論	2年 2		
		相談援助実習	3年 4		
		相談援助実習指導(1)	2年 2		
		相談援助実習指導(2)	2年 2		
		相談援助実習指導(3)	3年 2		
		相談援助実習指導(4)	3年 2		
人体構造及び日常生活行動に関する理解		医学概論	2年 2		
加齢及び障害に関する理解		リハビリテーションとトレーニング	2年 2		

2) 教職に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する開設授業科目	開講基準年次及び単位数				履修方法
科 目	左項の各科目に含めることが必要な事項	単位数		1 年	2 年	3 年	4 年	
教職の意義等に関する科目	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。） ・進路選択に資する各種の機会の提供等	2	教職入門	2				必修
教育の基礎理論に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	6	学校と教育の歴史	2				必修
	・児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある児童、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）		発達と学習	2				必修
	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		教育制度論	2				必修
	障害者教育論		障害者教育論	2				選択
教育課程及び指導法に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法	中12 高 6	教育課程論		2			必修
	・各教科の指導法		英語科指導法A	4				必修
			英語科指導法B		2			必修
			英語科指導法C		2			必修
			社会科・地理歴史科指導法A	2				必修
			社会科・地理歴史科指導法B		2			選択必修
			社会科・公民科指導法A	2				必修
			社会科・公民科指導法B		2			選択必修
			福祉科指導法	4				必修
	・道徳の指導法		道徳教育の理論と方法		2			※ 2
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	・特別活動の指導法		特別活動の指導法		2			必修
	・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		教育方法の理論と実践	2				必修
			教育の方法と技術（情報機器及び教材の活用を含む）		2			必修
教育実習	・生徒指導の理論及び方法	4	生徒指導の理論と方法		2			必修
	・進路指導の理論及び方法		教育相談	2				必修
教職実践演習	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	中 5 高 3	教育実習A			5		選択必修
			教育実習B			3		※ 3
教職実践演習		2	教職実践演習（中高）				2	多元心理学科、コミュニケーション・カウンセリング・ソーシャルワーカー専門教育科目必修
			教職実践演習（幼小中）				2	現代子ども学科必修

備考 1：教育実習の履修以前に、教育実習を除く教職に関する科目の必修科目を履修しておくこと（「教職実践演習」を除く）。後述〔3〕(8)を参照してください。

2：※ 1 は、取得希望する免許教科の「××科指導法」を履修方法に従い、中一種においては 6 単位（英語科においては 8 単位）、高一種においては 4 単位（後述〔3〕(8)を参照してください。）を必修。他の免許教科の「××科指導法」を「教職に関する科目」として使用することはできません。

3：※ 2 は、中一種においては必修、高一種においては選択。

4：※ 3 は、後述の〔3〕を参照してください。

3) 教科又は教職に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分	単位数	左記に対応する開設授業科目	開講基準年次及び単位数				履修方法
			1年	2年	3年	4年	
教科又は教職に関する科目	高16	道徳教育の理論と方法			2		備考 2
	中 8	情報教育論		2			

備考 1 : 教育職員免許法施行規則で定められた、免許状取得に必要な最低修得単位数を超えて修得した「教職に関する科目」と「教科に関する科目」の単位は、「教科又は教職に関する科目」の単位として使用することができます。ただし、他の免許教科のために設けられている「教科に関する科目」と「教職に関する科目」の単位は、「教科又は教職に関する科目」の単位に使用することはできません。

2 : 「道徳教育の理論と方法」は、高一種においては、自由選択。中一種においては、「教科又は教職に関する科目」として使用することはできません。

4) 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

免許法施行規則に定める科目区分	単位数	左記に対応する開設授業科目	開講基準年次及び単位数				履修方法
			1年	2年	3年	4年	
・日本国憲法	2	日本国憲法	2				必修
・体育	2	健康科学	2				必修
		スポーツ・アンド・エクササイズA	1				これら 7科目より 1科目 選択必修
		スポーツ・アンド・エクササイズB	1				
		スポーツ・アンド・エクササイズC	1				
		スポーツ・アンド・エクササイズD	1				
		スポーツ・アンド・エクササイズE	1				
		スポーツ・アンド・エクササイズF	1				
・外国語コミュニケーション	2	英語コミュニケーションA(1)	1				必修
		英語コミュニケーションA(2)	1				必修
・情報機器の操作	2	情報リテラシー	2				必修

[3] 教育実習

教職に関する科目の一つである教育実習は、教育現場における体験を通じて、教育についての深い理解と強い熱意をつちかい、真にやき教育者としての素地をつくることを目的として行われます。実習生は、実際に教壇に立つとともに、生徒へのさまざまな指導、学級の経営と管理、校務などの実習を行います。

教育実習に関しては、次の点に注意してください。

- (1) 中学校免許取得のためには、「教育実習A」 5 単位（実習は原則として 3 週間 4 単位と事前・事後指導 1 単位）、高等学校免許取得のためには、「教育実習B」 3 単位（実習 2 週間 2 単位と事前・事後指導 1 単位）または「教育実習A」のいずれかの履修が必要です。
- (2) 実習先は、原則として中学校または高等学校、あるいはその両方です。いずれの場合も、本学で取得できる中学校・高等学校のすべての免許に有効です。
- (3) 複数の教科の免許を取得しようとする場合にも、実習はいずれかの教科で 1 回行えば十分です。
- (4) 教育実習は、実習校の協力を得て行われるものです。実習生は、実習校に迷惑をかけることのないよう、しっかりした決意と十分な配慮をもって取り組まなくてはなりません。
- (5) 教育実習に先立って、教育実習申込みオリエンテーションを行います。このオリエンテーションで教育実習についての認識を深め、慎重に検討した上で教育実習を希望する者は、所定の期間内に必要な書類を添えて履修支援センターに申し込んでください。ただし、下記「3. 教職課程委員会が指定する課題に関する条件」の①を満たさない者の教育実習申込みを受け付けることができません。
- (6) 教育実習期間の前後に数回の事前・事後指導を行います。また、教育実習後には、所定のレポートを提出しなければなりません。教育実習の履修には、事前指導・事後指導への出席とレポートの提出も含まれます。
- (7) 教育実習は教員を志す者にのみ認められます。教育実習を希望する者は、教員採用試験（愛知県・名古屋市など）を受験することを原則とします（中学校・高等学校が実施する事前指導で、教員採用試験を受けない学生は実習をとりやめるように言われたケースがあります）。また、教育実習や教員採用試験の時期は企業などへの就職活動の時期と重なりますが、企業などへの就職活動についての配慮はいっさい認められませんので、注意してください。
- (8) 教育実習の際に必要な知識を習得しておくために、教育実習の履修以前に、教育実習を除く「教職に関する科目」の必修科目をすべて履修していかなければなりません（「教職実践演習」を除く）。また、取得希望する免許教科の「○○科指導法」を、中一種においては 6 単位、高一種においては 4 単位を履修していかなければなりません。なお、教育実習への準備を十分に行うために「○○科指導法」が選択必修の場合であっても、全て履修することを強く推奨します。
- (9) 教育実習では実際の授業の場で生徒に指導するため、十分な力量を備えて実習に臨む必要があります。本学では、以下に示す「1. 教職に関する科目に関する条件」「2. 教科に関する科目に関する条件」「3. 課題に関する条件」のすべてを満たす場合に教育実習の履修を認めることがあります。なお、履修カルテ等によって教育実習に向けた準備状況を把握し、不十分であると判断された学生には学科のアドバイザー教員や教職課程担当教員から、改善を促すことがあります。改善が見られない場合は履修を認めないこともあります。

1. 「教職に関する科目」に関する条件

次のいずれかを満たすこと。

- ① 原則として、教育実習履修前年度終了時までに必修科目をすべて履修し、かつ、18単位以上取得していること。ただし、「各教科の指導法」に関する科目（○○科指導法）は、教育実習で担当する科目に関するもののみをこの条件の対象科目とする。
- ② キャリアアップ講座が実施する教員採用試験模試の「教職科目」（教職教養等の名称）の試験の得点が50%以上の結果を、一度以上得ていること（ただし自宅受験した場合の成績は対象としない）。

*留学等によって、①の条件を満たすことができない学生は次のように対応する。留学へ行く場合は、4年次（薬学部6年次）卒業までに教職課程に必要な単位をすべて取得できる見込みがある場合にのみ、4年次（薬学部6年次）における教育実習履修を認めることとする。その際、原則として、教育実習履修前年度末までに、教職に関する科目6科目以上を履修し、12単位以上（○○科指導法Aまたは○○科指導法を含む）を取得していることを条件とする。

2. 「教科に関する科目」に関する条件

次のいずれかを満たすこと。

- ① 教育実習前年度終了時点における教育実習で担当する科目の教科に関する科目のGPAが2.5以上であること。
- ② キャリアアップ講座が実施する教員採用試験模試の「専門科目」（教育実習で担当する科目）の得点率が50%以上の結果を一度以上、得ていること（ただし自宅受験した場合の成績は対象としない）。
- ③ 教科の専門的知識・技能があると認められる資格等を取得していること。

英語：英検2級以上、TOEIC500点以上、TOEFL470点以上、またはこれらと同等以上の資格のいずれか

家庭：消費者力検定「応用コース」3級以上

情報：ITパスポート試験、基本情報技術者試験、情報セキュリティマネジメント試験、マルチメディア検定エキスパートのいずれかに合格していること

音楽：音楽芸術学科が主催する定期演奏会の出場経験、またはそれと同等以上と認められる演奏会への出場経験

理科：薬学共用試験に合格していること

その他、各学科から提案のあった資格、入賞経験等を有し、大学教職課程委員会が認めた場合。

*上記1、2の条件は、編入生、科目等履修生に関しては、理科のみ2015年度教育実習から、他の教科は2013年度教育実習から、この条件を適用している。ただし、学内模試を受験できない等の事情がある編入生、科目等履修生は、課題に取り組ませた上で、学力確認試験等を実施して、教育実習履修の可否を判断するものとする。

3. 教職課程委員会が指定する課題に関する条件

- ① 教育実習の申込みに関しては、2年次の3月末に当該学年の秋課題を提出していることを条件とする。
 - ② 教育実習の履修に関しては、3年次（4年次に教育実習を行えない者は教育実習履修前年度）の2月末に3年生の秋課題までの課題のすべてを提出していることを条件とする。
- *ただし、留学する学生、編入生や科目等履修生の課題の内容や提出期限は、時期を考慮して担当教員から指示する。

[4] 「介護等体験」について

「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」により、中学校教諭の免許状を取得しようとする場合に、特別支援学校および社会福祉施設等で7日間以上にわたる「介護等体験」を行うことが必要です。大学が斡旋する施設等に行って所定の活動を行う必要があります。大学による斡旋は、3年次に行う予定です。説明会等を2年次から行いますので注意してください。ただし、介護等に関する専門知識等を有する者や障害により介護等体験が困難な者は、免除される場合がありますので、履修支援センターで相談してください。

なお、3年次の夏休みを中心とした時期に介護等体験の予定が入りますが、原則として、正式な授業と認められるもの（例：集中講義、幼稚園教育実習、病院及び薬局実習など）及び、学科の専門領域と密接に関連があり、かつ、教育実習に向けた準備の上でも有益であると考えられる学科主催の公式行事である場合、また、履修要覧で定めている「欠席」とみなさない場合の条件、大学9頁〔5〕②eに該当する可能性があり、「配慮すべき日数」が数日に留まるものの場合には日程調整を行います。日程が明確となっている場合は、所定の期日までに申告してください。

なお、「配慮すべき日数」が数日に留まるもののうち当該学科からの要請によって大学教職課程委員会が承認した場合は、決められた期日までに申し出したことにより日程調整を行うことがあります。学科の行事等が予定されている場合は自学科の教員と自学科担当の教職課程担当教員に相談してください。

ただし、施設や学校の受け入れ側の都合で、希望に添う日程に調整することは保証できませんので、ご承知ください。

〔5〕教職課程関係の連絡とスケジュール

教職課程の履修に関しては、教育実習、介護等体験、教員免許状の申請、各種オリエンテーションなど、さまざまな手続きが必要です。これらについての連絡はK-PORT（学生ポータルサイト）・manaba等によって行いますので、教職課程の履修を希望する者はつねに注意してください。なお、教職課程に関する質問や相談は、履修支援センターで受け付けます。

教職課程に関して、4年間の主なスケジュールは次の通りです。

1年次	4月	教職課程ガイダンス（新入生オリエンテーション内）
2年次	7月	教職課程履修申込みオリエンテーション（履修希望者全員）
	10月	介護等体験申込みオリエンテーション（中学校免許状取得希望者）
	11月	教員採用試験オリエンテーション
	12月	学内模試（各自申込） 教員採用試験対策講座
	4月	教育実習履修（次年度）申込みオリエンテーション及び介護等体験日程調整
3年次	4月・5月	学内模試（各自申込）
	5月～6月	教育実習希望校への内諾依頼
	7月～	介護等体験事前指導（全2回）
	8月～12月	介護等体験
	9月	私学適性検査（各自申込）
	10月	第1回教育実習事前指導
	11月	教員採用試験オリエンテーション
	12月	学内模試（各自申込） 教員採用試験対策講座
	4月～5月	第2～7回教育実習事前指導
	4月・5月	学内模試（各自申込）
4年次	5月中旬	愛知県・名古屋市・岐阜県・三重県教育委員会採用試験説明会
	5月～6月	教育実習A（原則として3週間）、教育実習B（2週間） *一部の学校では9月～10月になります
	7月上旬	教育実習事後指導
	7月中旬	教員採用試験・一次試験（愛知県・名古屋市他全員受験）
	8月	教員採用試験・二次試験（愛知県・名古屋市他）
	9月	教員免許状一括申請学内申込み
	11月	私学適性検査（各自申込）
	3月（学位記授与式当日）	教員免許状申請書類記入 免許状交付

<教員採用試験模擬試験>

本学では、中高免教職課程において教育実習を行う者は、教員採用試験を受験することを原則とします。これは教育委員会から、教育実習の受け入れ条件として教員になる希望を持って、採用試験を受験することが条件として示されているためです。この条件は、教育現場において授業を担当する以上、しっかりと専門的な知識技能と教職への希望を持って子どもへの指導にあたって欲しいという教育現場からの声を反映させたものであると本学では理解しています。そのため、2年次12月から4年次5月にかけて、キャリア・アップ講座に設けられている模擬試験（学内模試）を受験することを推奨しています。教員採用試験は、試験範囲が広く、長期的な展望を持って準備しないと、合格は容易ではありません。長期的な学習計画を立て、模擬試験をペースメーカーとして、教育実習と採用試験に備えてください。

注1) 教員採用試験対策講座受講者は、専門科目の模擬試験が受験できます。詳しくはキャリア・アップ講座の窓口にお問い合わせください。

<教員採用試験>

公立中学校・高等学校の教員採用試験は、毎年夏に行われます。前述のように、本学では、教員採用試験の受験を教育実習を行うための条件にしています。また、多くの教育委員会で、教育実習の期間前や期間中に教員採用試験受験申し込み締め切りを設定しているため、教育実習前に教員採用試験の受験申し込みを済ませてください。なお、私学の教員採用については、応募や試験の形態が様々であるため、私学教員を志す場合は、各自で情報収集をするとともに、各学部・各学科担当の教職課程委員の教員に相談をしてください。

<教員免許状の申請>

教員免許状の申請は、大学が一括して愛知県教育委員会に対して行います。4年次の9月に申請手続きを履修支援センター窓口で行います。なお申請時に手数料が別途必要です。期限内に手続きをしない場合は、一括申請から除外されますので、行事予定やK-PORTを十分に注意し、指示に従ってください。

[6] 課程履修費等について

本課程を履修するには学納金とは別に課程履修費等が必要です。課程履修費は、2,500円（3年次後期）、16,600円（4年次前期）です。なお、実習の際には学研災付帯賠償責任保険料210円が必要です。

また、中学校教諭の免許状取得希望者は、介護等体験履修費として10,600円（3年次前期）、実習の際には学研災付帯賠償責任保険料210円が必要です。

徴収方法は学納金口座からの引き落としとなります。引き落としに際しては事前にご案内致します。

2 幼一種免教職課程について

〔1〕教職課程とは？

幼稚園の教員になるためには、幼稚園教諭免許状が必要であり、その取得のためには、教育職員免許法及び同法施行規則等に定められた課程を履修し、所定の単位を修得しなければなりません。

人間科学部現代子ども学科では、幼稚園教諭一種免許状取得希望者のために教職課程を設けており、卒業するためには原則として幼稚園教諭一種免許状または小学校教諭一種免許状を得るのに必要な科目および単位を修得する必要があります。また、真に教員を志す者は、常に学識を鍛磨し、人格の陶冶、正しい判断力の育成を心がける必要があるので、固い決意をもって臨んでください。

〔2〕幼一種免教職課程の履修に必要な単位

幼稚園教諭一種免許状を取得するためには、基礎資格として学士の資格を有することが必要です。つまり、所定の単位を修得して本学を卒業することが前提となります。

その上で、教職課程の履修には教育職員免許法施行規則に定める、次の4種類の科目の修得が必要です。最低修得単位数は教育職員免許法施行規則に定められた最低修得単位数であり、本学で修得しなければならない単位数については後掲の表を参照してください。

免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数
①教科に関する科目	6
②教職に関する科目	3 5
③教科又は教職に関する科目	1 0
④教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	8
合 計	5 9

1) 教科に関する科目

科 目	単位数	左記に対応する本学開設授業科目、開講基準年次及び単位数				
		必 修 科 目		選 択 科 目		
国語	6	◎児童文学（演習）	3年 1			
		◎国語科研究	3年 1			
		子ども文化論A	2年 2			
		◎子ども文化論B（演習）	3年 1			
		◎生活科研究	3年 1			
		音楽A	1年 1			
		音楽B	1年 1			
		音楽C	2年 1			
		◎音楽D	3年 1			
		◎音楽科研究	3年 1			
生活		图画工作A	1年 1			
		图画工作B	1年 1			
		◎発達美術論（演習）	3年 1			
		◎图画工作研究	3年 1			
音楽		子ども体育A	1年 2			
		◎子ども体育B（演習）	3年 1			
		◎体育科研究	3年 1			
体育						

各科目区分において◎のどちらか1科目を選択必修。

2) 教職に関する科目

科 目	左項の各科目に含めることが必要な事項	単位数	左記に対応する開設授業科目		履修方法
			開講基準年次及び単位数		
教職の意義等に関する科目	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。） ・進路選択に資する各種の機会の提供等	2	教育者論	2	必修
教育の基礎理論に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 ・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）	6	教育原論	2	必修
			発達心理学	2	必修
			発達と学習	2	必修
教育課程及び指導法に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法 ・保育内容の指導法 ・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	18	保育内容総論 教育課程計画法	2	必修 必修
			保育内容（健康）	2	必修
			保育内容（人間関係）	2	必修
			保育内容（環境A）	1	必修
			保育内容（環境B）	1	必修
			保育内容（言葉）	2	必修
			保育内容（表現・美術A）	1	必修
			保育内容（表現・美術B）	1	必修
			保育内容（表現・音楽A）	1	必修
			保育内容（表現・音楽B）	1	必修
			幼児教育指導法	2	必修
			教育方法論	2	必修
			視聴覚教育	2	選択
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	・幼児理解の理論及び方法 ・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	2	子ども理解と発達相談	2	必修
教育実習		5	幼稚園教育実習A 幼稚園教育実習B 小学校教育実習 幼稚園教育実習法 小学校教育実習法	2 2 4 1 1	必修 ◎選択必修 ※選択必修 必修 ※選択必修
教職実践演習		2	教職実践演習(幼小中)	2	必修

教育実習は、◎の「1科目2単位」または※の「2科目5単位」のいずれか選択必修。

履修方法は、学科の指導に従うこと。

3) 教科又は教職に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分	単位数	左記に対応する開設授業科目	開講基準年次及び単位数				履修方法
			1年	2年	3年	4年	
教科又は教職に関する科目	10	小学校英語 幼小連携論 小学校英語教育法 特別支援教育論	2 2 2 2				選択

備考：教育職員免許法施行規則で定められた、免許状取得に必要な最低修得単位数を超えて修得した「教職に関する科目」と「教科に関する科目」の単位は、「教科又は教職に関する科目」の単位として使用することができます。

4) 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

免許法施行規則に定める科目区分	単位数	左記に対応する開設授業科目	開講基準年次及び単位数				履修方法
			1年	2年	3年	4年	
・日本国憲法	2	日本国憲法	2				必修
・体育	2	健康科学 スポーツ・アンド・エクササイズA スポーツ・アンド・エクササイズB スポーツ・アンド・エクササイズC スポーツ・アンド・エクササイズD スポーツ・アンド・エクササイズE スポーツ・アンド・エクササイズF スポーツ・アンド・エクササイズG	2 1 1 1 1 1 1				必修 これら7科目より1科目選択必修
・外国語コミュニケーション	2	英語コミュニケーションA(1) 英語コミュニケーションA(2)	1 1				必修
・情報機器の操作	2	情報リテラシー	2				必修

[3] 教育実習

教職に関する科目の一つである教育実習は、幼稚園における教育の体験を通して、幼稚園や児童について深い理解と実践能力、教育者としての資質の向上に努めることを目的として行われます。実習生は、実習園の指導教諭のもとで、実際に児童の活動に参加したり指導を経験し、幼稚園教諭の職務内容全般について実習を行います。

教育実習に関しては、次の点に注意してください。

- (1) 幼稚園教諭免許状取得のためには、次のいずれかの方法で教育実習・教育実習法を履修し、単位を修得する必要があります。
 - a) 「幼稚園教育実習A」、「幼稚園教育実習B」及び「幼稚園教育実習法」の3科目5単位
 - b) 「幼稚園教育実習A」、「幼稚園教育実習法」、「小学校教育実習」及び「小学校教育実習法」の4科目8単位
- (2) 教育実習は、実習園の協力を得て行われるもので、実習生は、実習園に迷惑をかけることのないよう、しっかりした決意と十分な配慮をもって取り組まなくてはなりません。
- (3) 教育実習に先立って、教育実習事前オリエンテーションを行います。このオリエンテーションで教育実習についての認識を深め、慎重に検討した上で所定の期間内に必要な書類を添えて申し込んでください。また、教育実習期間の前後に数回の事前指導・事後指導を行います。
- (4) 教職に関する科目（教育実習、教育実習法および教職実践演習を除く）はすべて、原則として3年次までに履修しておくようにしてください。
- (5) 教育実習と就職活動が重なっても、企業などへの就職活動についての配慮はいっさい認められません。

[4] 教職課程関係の連絡とスケジュール

教職課程の履修に関しては、教育実習、教員免許状の申請、各種オリエンテーションなど、さまざまな手続きが必要です。これらについての連絡はK-PORT（学生ポータルサイト）によって行いますので、教職課程の履修を希望する者はつねに注意するようしてください。

なお、教職課程に関する質問や相談は、本部棟3階の学生支援部履修支援センターで受け付けます。

教職課程に関して、4年間の主なスケジュールは次の通りです。

2年次	6月～7月	幼稚園教育実習A(3年次)履修オリエンテーション及び申込み 教育実習希望園への内諾依頼(愛知県外)
3年次	4月～9月 10月～11月	幼稚園教育実習A事前指導 幼稚園教育実習A(2週間) 幼稚園教育実習A事後指導及び幼稚園教育実習B(4年次)申込み 教育実習希望園への内諾依頼(愛知県外)
4年次	5月中旬 6月 9月 11月 3月(学位記授与式当日)	幼稚園教育実習B事前指導 幼稚園教育実習B(2週間) 幼稚園教育実習B事後指導 教員免許状申請申込み 教員免許状申請書類記入 免許状交付

[5] 教員免許状の申請

教員免許状の申請は、大学が一括して愛知県教育委員会に対して行います。4年次の9月に申請手続きを学生支援部履修支援センターで行います。なお、申請にあたっては、手数料が別途必要です。期限内に手続きをしない場合は、一括申請から除外されますので、行事予定やK-PORTを十分に注意し、指示に従ってください。

[6] 課程履修費等について

本課程を履修するには学納金とは別に課程履修費等が必要です。課程履修費は、7,000円(2年次前期)、10,400円(3年次前期)、6,600円(4年次前期)です。なお、実習の際には学研災付帶賠償責任保険料210円が必要です。

徴収方法は学納金口座からの引き落としとなります。引き落としに際しては事前にご案内致します。

3 小一種免教職課程について

〔1〕小学校教諭一種免許状取得のための教職課程

小学校教諭一種免許状（以下、小一種免）は、大学卒業者に与えられる「学士」の称号を持ち、小学校教員養成のために編成された教育課程を履修した者に与えられます。人間科学部現代子ども学科では、小一種免取得希望者のための教職課程を設けており、卒業するためには原則として小一種免または幼稚園教諭一種免許状を得るのに必要な科目および単位を修得する必要があります。

教員を志す者は、常に学識を練磨し、人格の陶冶と正しい判断力の育成を心がけていなければなりません。とくに小学校教員は、すべての子どもたちに保障された義務教育9ヵ年のうちの最初6年間の教育に携わります。子どもたち一人一人の人生の基礎をつくり、豊かで安定した社会の土台を築くための貴重な6年間に関わるのですから、小学校教員に要請される社会的責務の大きさには計り知れないものがあります。したがって、将来、小学校教員になるつもりはないが、とりあえず免許だけ欲しいという安易な気持ちで教職課程を履修すべきではありません。自分の将来像と小学校教員としての適性を十分に見極めたうえで、小免教職課程に進むかどうかを決めましょう。

〔2〕小一種免教職課程の履修に必要な単位

教員養成のための教職課程は、教育職員免許法及び同法施行規則等に基づいて、下記の4つの科目群によって編成されています。参考までに、各科目群の法令上の必要単位数を挙げておきますが、本学で修得しなければならない単位数については後掲の表を参照してください。

免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数
①教科に関する科目	8
②教職に関する科目	4 1
③教科又は教職に関する科目	1 0
④教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	8
合 計	6 7

1) 教科に関する科目

科 目	単位数	左記に対応する開設授業科目、開講基準年次及び単位数			
		必修科目		選択科目	
国語（書写を含む。）		国語科研究	3年 1	児童文学（演習）	3年 1
社会		社会科研究	3年 1		
算数		算数科研究	2年 1		
理科		理科研究	2年 1		
生活		生活科研究	3年 1	子ども文化論A	2年 2
				子ども文化論B（演習）	3年 1
音楽	8	音楽科研究	3年 1	音楽A	1年 1
				音楽B	1年 1
				音楽C	2年 1
				音楽D	3年 1
図画工作		図画工作研究	3年 1	図画工作A	1年 1
				図画工作B	1年 1
				発達美術論（演習）	3年 1
家庭		家庭科研究	3年 1		
体育		体育科研究	3年 1	子ども体育A	1年 2
				子ども体育B（演習）	3年 1

2) 教職に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する開設授業科目	開講基準年次及び単位数				履修方法
科 目	左項の各科目に含めることが必要な事項	単位数		1 年	2 年	3 年	4 年	
教職の意義等に関する科目	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。） ・進路選択に資する各種の機会の提供等	2	教育者論 教職入門	2				必修 選択
教育の基礎理論に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 ・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）	6	教育原論 発達心理学 発達と学習		2			必修 必修 必修
教育課程及び指導法に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法 ・各教科の指導法 ・道徳の指導法 ・特別活動の指導法 ・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	22	教育課程計画法 国語科教育法 社会科教育法 算数科教育法 理科教育法 生活科教育法 音楽科教育法 図画工作教育法 家庭科教育法 体育科教育法 道徳教育の方法（初等） 特別活動の研究（初等） 教育方法論 視聴覚教育	2	2	2	2	必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 選択
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導の理論及び方法 ・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	4	生徒指導の研究（初等） 子ども理解と発達相談			2	2	必修 必修
教育実習		5	小学校教育実習 小学校教育実習法			4	1	必修 必修
教職実践演習		2	教職実践演習（幼小中）			2		必修

履修方法は、学科の指導に従うこと。

3) 教科又は教職に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分	単位数	左記に対応する開設授業科目	開講基準年次及び単位数				履修方法
			1年	2年	3年	4年	
教科又は教職に関する科目	10	小学校英語 幼小連携論 小学校英語教育法 特別支援教育論	2 2 2 2				選択

備考：教育職員免許法施行規則で定められた、免許状取得に必要な最低修得単位数を超えて修得した「教職に関する科目」と「教科に関する科目」の単位は、「教科又は教職に関する科目」の単位として使用することができます。

4) 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

免許法施行規則に定める科目区分	単位数	左記に対応する開設授業科目	開講基準年次及び単位数				履修方法
			1年	2年	3年	4年	
・日本国憲法	2	日本国憲法	2				必修
・体育	2	健康科学 スポーツ・アンド・エクササイズA スポーツ・アンド・エクササイズB スポーツ・アンド・エクササイズC スポーツ・アンド・エクササイズD スポーツ・アンド・エクササイズE スポーツ・アンド・エクササイズF スポーツ・アンド・エクササイズG	2 1 1 1 1 1 1				必修 これら7科目より1科目選択必修
・外国語コミュニケーション	2	英語コミュニケーションA(1) 英語コミュニケーションA(2)	1 1				必修
・情報機器の操作	2	情報リテラシー	2				必修

[3] 小学校教育実習

前掲表2)「教職に関する科目」にあるように、小一種免を取得するには、教育実習に関する科目が必修で、小学校において3週間の実習を行います。

教育実習を履修する者は、3年次4月、所定の期間内に必要書類を添えて、学生支援部履修支援センターに申し込まなければなりません。

<小学校実習のための心構え>

小学校教育実習は、小学校での実地体験を通して、教育に対する深い洞察力と強い熱意を培い、真によき教育者としての素地をつくることを目的として行われます。実習生には、教科指導から子どもの心身の健康管理、学級運営、特別活動、さらに校務に関するここまで、小学校での教育活動全般についての実習が課せられます。したがって、以下の点を十分に確認したうえで、実習の申し込みをしてください。

- ①教育実習は、実習校の協力なくしては成り立ちません。実習生は、実習校の先生方が日々の多忙な教育業務をこなしながら指導にあたって下さっていることを心に留め、実習生としてのマナーと実習校にたいする配慮をもって行動しなければなりません。
- ②実習校の協力のもとに行われる教育実習は、強い意志をもって教員を志す者のみに機会が与えられます。したがって、教育実習を履修する者は、小学校教員採用試験を受験することを原則とします。
- ③教育実習の事前事後指導として「小学校教育実習法」を3年次後期から開講します。この講座は教育実習の一部ですから参加態度によっては、実習申し込みを取り消されることがあります。
- ④教育実習期間中の企業等への就職活動は一切認められません。

[4] 教職課程関係の連絡とスケジュール

小一種免を取得するためには、教育実習や介護等体験、教員免許状の申請、オリエンテーションの受講などさまざまな学習や手続きが必要です。これらに関する連絡はK-PORT（学生ポータルサイト）によって行いますので、つねに注意して見てください。教職課程に関する質問や相談は、本部棟3階の学生支援部履修支援センターで受け付けます。

小一種免取得に関する4年間の主なスケジュールは次の通りです。

2年次	9月 10月	小一種免取得希望者の決定、教育実習履修申込み 介護等体験申込みオリエンテーション及び申込み
3年次	4月	介護等体験日程調整オリエンテーション
	5月～6月	県外教育実習希望校への内諾依頼
	7月～	介護等体験事前指導（全2回）
	8月～12月	介護等体験
	11月～1月	小学校教育実習事前指導
4年次	4月～9月	小学校教育実習事前・事後指導
	5月	採用試験願書受付（愛知県公立学校）
	6月	小学校教育実習（3週間）
	7月	小学校教員採用試験 一次試験（愛知県・名古屋市他）
	8月	小学校教員採用試験 二次試験（愛知県・名古屋市他）
	9月	教員免許状の申請申込み（履修支援センター窓口）
	11月	教員免許状申請書類記入
	3月（学位記授与式当日）	免許状交付

[5] 「介護等体験」について

「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」により、小学校教諭の免許状を取得しようとする場合に、特別支援学校および社会福祉施設等で7日間以上にわたる「介護等体験」を行うことが必要です。大学が斡旋する施設等に行って所定の活動を行う必要があります。大学による斡旋は、3年次に行う予定です。説明会等を2年次から行いますので注意してください。ただし、すでに介護等体験にあたる資格を有している者は、体験をする必要がない場合がありますので、履修支援センターで相談してください。

なお、3年次の夏休みを中心とした時期に介護等体験の予定が入りますので、この時期には海外語学研修等に参加することはできません。また、その他のいかなる予定も介護等体験の日程が決まってから計画するようにしてください。

ただし、原則として、正式な授業と認められるもの（例：集中講義や幼稚園教育実習など）及び、学科の専門領域と密接に関連があり、かつ、教育実習に向けた準備の上でも有益であると考えられる学科主催の公式行事である場合、また、履修要覧で定めている「欠席」とみなさない場合の条件、大学9頁〔5〕②eに該当する可能性があり、「配慮すべき日数」が数日に留まるものの場合には日程調整を行います。日程が明確となっている場合は、所定の期日までに申告してください。

なお、「配慮すべき日数」が数日に留まるもののうち当該学科からの要請によって大学教職課程委員会が承認した場合は、決められた期日までに申し出ることにより日程調整を行うことがあります。学科の行事等が予定されている場合は自学科の教員と自学科担当の教職課程担当教員に相談してください。

ただし、施設や学校の受け入れ側の都合で、希望に添う日程に調整することは保証できませんので、ご承知ください。

[6] 教員採用試験

公立小学校教員の採用試験は、毎年夏に行われます。小学校教育実習を行う者は、この採用試験を受験することを原則とします。出題範囲が広く、競争率もかなり高い試験ですから、長期的な展望をもって準備することが必要です。また、出題傾向や試験方法は受験先によってさまざまです。早い段階から、自分で情報収集を行うように心がけてください。

[7] 小一種免の申請

教員免許状の申請は、大学が一括して愛知県教育委員会に対して行います。4年次の9月に申請手続きを履修支援センター窓口で行います。なお、申請にあたっては、手数料が別途必要です。期限内に手続きをしない場合は、一括申請から除外されますので、行事予定やK-PORTを十分に注意し、指示に従ってください。

[8] 課程履修費等について

本課程を履修するには学納金とは別に課程履修費等が必要です。課程履修費は、15,400円（4年次）です。なお、実習の際には学研災付帯賠償責任保険料210円が必要です。また、介護等体験履修費は10,600円（3年次前期）、実習の際に必要な学研災付帯賠償責任保険料210円です。

徴収方法は学納金口座からの引き落としとなります。引き落としに際しては事前にご案内致します。

1 保育士資格について

〔1〕保育士資格について

「保育士」は児童福祉法に定められた国家資格です。保育所、児童養護施設等で乳幼児から18歳未満までの年齢層の子どもの成長発達を援助し、保護者に保育に関する指導をすることを業務とする専門職に与えられる名称です。これ以外の者が「保育士」を名乗ることは法律で禁止されています（名称独占と言います）。

近年、都市化・少子化が進み、家族形態が変容するなど子どもを取り巻く環境が大きく変化し、健やかな成長に影響が及ぶ事態の生じる恐れも懸念されるようになっています。子どもが地域において健康で安全に成長することのできる環境を整えるとともに、豊かな人間性と高い専門的な知識と技術をもって、地域社会のさまざまな場面で指導的役割をはたすことのできる保育士が、各方面から強く求められています。

「保育士」資格は、一定の定められた科目を履修し、大学を卒業することにより取得できます。保育士には、保育、乳幼児心理、児童福祉や幼児教育に関する専門的知識と保育に関わる実践的技術を修得するとともに、人間や社会についての幅広い教養を身につけることが要請されます。保育士は専門職であるだけに、それを目指そうとする人は、目的意識を持って積極的に学習を進めることができます。

なお、「保育士」資格を得るために、2年次に「幼稚園教員・保育士養成コース」の所属を選択する必要があります。

また、「保育士」資格を得るために必要な授業科目及び単位の修得方法は、次項以降の表の通りです。(1)基礎科目群、(2)必修科目群、(3)選択必修科目群からそれぞれの修得方法にしたがって履修してください。(保育士資格必修の科目で1年次から開講されているものもあるので、注意してください。)

〔2〕保育実習について

「保育士」について理解を深めるためには、学内で講義・演習等をとおして学ぶだけではなく、保育所とその他の児童福祉施設で実際に保育や養護の体験をすることが大切です。実習をとおして保育所保育や施設養護の実際、保育士の多様な役割、各施設の社会的機能などについて具体的に理解を得ることができます。そのために2年から4年まで学年ごとに保育実習(A～D)が予定されています。また、それぞれの実習には、実習前のオリエンテーションと実習後の反省会からなる実習指導が設定されています。各実習と実習期間、および実習指導は以下の通りです。

なお、居住型施設での実習は宿泊を伴うのが基本ですので、日頃から健康には十分に留意するよう、心がけてください。

保育実習を始めるにあたっては、事前の十分な準備が欠かせません。したがって、実習に参加するためには、一定の条件を満たしていることが必要です。いずれの実習においても問題意識をもって主体的、積極的に実習に取り組むことが求められます。

《実習の種類及び実習期間、各実習指導》

各保育実習	実習施設及び期間		各保育実習指導
保育実習A (必修2単位)	保育所	2年前期	2週間
保育実習B (必修2単位)	施 設	3年前期	10日間
保育実習C (必修2単位)	保育所	2年後期	2週間
保育実習D (選択2単位)	施 設	4年前期・後期	10日間

*実習の時期や期間は実習先の保育所や施設の都合により、多少の変動はありますか、原則として実習時期と期間は上の表のように設定されています。

*実習指導は開講期日時が不定期であるため日程は事前にお知らせします。保育士資格を取得するためには、必修の実習指導にすべて出席する必要があります。

[3] 保育士課程関係の連絡とスケジュール

1年次	5月～7月 6月～7月 11月～翌年4月	保育実習予備オリエンテーション 第1回、2回保育所実習申込み 保育所実習・施設実習オリエンテーション
2年次	6月 7月 10月 11月～翌年4月	第1回保育所実習（保育実習A） 第1回施設実習（必修）希望調査・申込み（保育実習B） 第2回保育所実習（保育実習C） 施設実習オリエンテーション
3年次	4月～7月 7月	第1回施設実習（必修）*（保育実習B） 第2回施設実習（選択）希望調査・申込み
4年次	5月～12月 10月下旬～11月中旬	第2回施設実習（選択）（保育実習D）* 保育士申請登録

* 実習時期は施設の事情等により異なります。

[4] 課程履修費等について

本課程を履修するには学納金とは別に課程履修費等が必要です。課程履修費は1,200円（1年次後期）、25,000円（2年次前期）、19,600円（3年次前期）です。なお、実習の際には学研災付帶賠償責任保険料210円が必要です。

ただし、「保育実習D」履修者の場合は16,000円と学研災付帶賠償責任保険料210円が4年次に必要です。

徴収方法は学納金口座からの引き落としとなります。引き落としに際しては事前にご案内致します。

[5] 「保育士」資格を得るために必要な授業科目及び単位の修得方法

(1) 基礎科目群

系 列	科目区分	本学開設授業科目及び単位数並びにその修得方法				備 考	
		授 業 科 目	開講 基準	資格上の修得 区分と単位数			
			年次	必修	選択	計	
教養科目	外国語、 体育以外の科目	キリスト教学(1)	1	2	2		必修科目 8 単位を含め 12単位選択必修
		キリスト教学(2)	1	2	2		
		男女共同参画社会	1~2		2	2	
		倫理学	1~2		2	2	
		心理学	1~2		2	2	
		日本国憲法	1		2	2	
		スポーツと福祉	1		2	2	
		発達と学習	1	2	2		
		カウンセリング入門	1~2		2	2	
		キャリア開発A	1	2	2		
		情報リテラシー	1		2	2	
	外国語	英語コミュニケーションA(1)	1	1	1		必修科目 2 単位を含め 4 単位選択必修
		英語コミュニケーションA(2)	1	1	1		
		英語コミュニケーションB(1)	1	1	1		
		英語コミュニケーションB(2)	1	1	1		
	体育	健康科学	1	2	2		
		スポーツ・アンド・エクササイズA	1・2		1	1	
		スポーツ・アンド・エクササイズB	1・2		1	1	
		スポーツ・アンド・エクササイズC	1・2		1	1	
		スポーツ・アンド・エクササイズD	1・2		1	1	
		スポーツ・アンド・エクササイズE	1・2		1	1	
		スポーツ・アンド・エクササイズF	1・2		1	1	
		スポーツ・アンド・エクササイズG	1・2		1	1	
合 計				14	21	35	

(2) 必修科目群

系 列	科 目 区 分	本学開設授業科目及び単位数並びにその修得方法				備 考
		授 業 科 目	開 講 基 準 年 次	資 格 上 の 修 得 区 分 と 单 位 数	必 修 選 択 計	
保育の本質・目的に関する科目	保育原理	保育原理	1	2	2	
	教育原理	教育原論	3	2	2	
	児童家庭福祉	児童家庭福祉	2	2	2	
	社会福祉	社会福祉	1	2	2	
	相談援助	相談援助	3	2	2	
	社会的養護	社会的養護	2	2	2	
	保育者論	保育者論	3	2	2	
保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学 I	発達心理学	3	2	2	
	保育の心理学 II	乳幼児期発達心理学(演習)	1	1	1	
	子どもの保健 I	子どもの保健A	2	2	2	
		子どもの保健B	2	2	2	
	子どもの保健 II	子どもの保健C(演習)	2	1	1	
	子どもの食と栄養	子どもの食と栄養	2	2	2	
	家庭支援論	家族支援論	3	2	2	
保育の内容・方法に関する科目	保育課程論	保育課程論	2	2	2	
	保育内容総論	保育内容総論	3	2	2	
	保育内容演習	保育内容(人間関係)	2	2	2	
		保育内容(健康)	2	2	2	
		保育内容(環境A)	1・2	1	1	
		保育内容(言葉)	2	2	2	
		保育内容(表現・音楽A)	2	1	1	
		保育内容(表現・美術A)	2	1	1	
	乳児保育	乳児保育	1	2	2	
	障害児保育	障害児保育	2	2	2	
	社会的養護内容	社会的養護内容	2	1	1	
	保育相談支援	保育相談支援	3	1	1	
保育の表現技術	保育の表現技術	音楽A	1	1	1	
		音楽B	1	1	1	
		図画工作A	1	1	1	
		図画工作B	1	1	1	
		子ども体育B(演習)	3	1	1	
		児童文字(演習)	3	1	1	
保育実習	保育実習 I	保育実習A	2	2	2	保育所 施設
		保育実習B	3	2	2	
	保育実習指導 I	保育実習指導A	2	1	1	
		保育実習指導B	3	1	1	
総合演習	保育実践演習	保育実践演習	2	2	2	
合 計			59	0	59	

(3) 選択必修科目群

系 列	科 目 区 分	本学開設授業科目及び単位並びにその修得方法				備 考
		授 業 科 目	開 講 基 準 年 次	資 格 上 の 修 得 区 分 と 単 位 数		
		必 修	選 択	計		
保育の本質・目的に関する科目	幼児教育学	1		2	2	必修科目 3 単位を含め 9 単位選択必修
	教育人間学	2		2	2	
保育の対象の理解に関する科目	特別支援教育論	4		2	2	必修科目 3 単位を含め 9 単位選択必修
	臨床心理学概論	3		2	2	
	子ども理解と発達相談	3		2	2	
	乳幼児期発達心理学	2		2	2	
	児童・青年期発達心理学	3		2	2	
	人格心理学	3		2	2	
	障害児援助論	3		2	2	
	児童・青年精神医学	4		2	2	
	障害児発達論	3		2	2	
	家族社会学	4		2	2	
保育の内容・方法に関する科目	保育内容（環境B）	1・2		1	1	保育所 施設
	保育内容（表現・音楽B）	2		1	1	
	保育内容（表現・美術B）	2		1	1	
	子ども文化論A	2		2	2	
	子ども文化論B（演習）	3		1	1	
保育の表現技術	音楽C	2		1	1	保育所 施設
	音楽D	3		1	1	
	遊戯療法	3		2	2	
	発達美術論（演習）	3		1	1	
	子ども体育A	1		2	2	
保育実習	保育実習II	保育実習C	2	2	2	保育所 施設
	保育実習III	保育実習D	4		2	
	保育実習指導II	保育実習指導C	2	1	1	
	保育実習指導III	保育実習指導D	4		1	
		合 計		3	40	43

2 精神保健福祉士国家試験受験資格について

「精神保健福祉士」とは、精神保健福祉士法に定められた国家資格です。主に精神科病院その他の医療施設や障害福祉サービス事業所において、精神障害者の地域移行・地域定着に関する相談および援助に従事する専門職をいいます。

「精神保健福祉士」の国家試験受験資格は、厚生労働省の定める「指定科目」(20科目以上)を履修することによって得ることができます。本学では、多元心理学科の学生はその履修ができることなっています。「指定科目」と「本学開講科目」の対比は以下の通りです。表にしたがって合計20科目以上を履修してください。指定科目履修後、国家試験に合格して登録を行うと「精神保健福祉士」資格を取得することができます。

本学では各学年20名を定員としています。この学修では医療施設や障害者施設などで合計210時間の実習も行われ、事前の学習を含めて明確な目的意識が必要です。そのため、この資格取得希望者に対して、学内での選抜試験を行います。その時期や実際の履修指導はその都度行われます。

	指定科目	本学開講科目	開講基 準年次	単位数		備考
				必修	選択	
社会福祉士との共通科目	(1) 人体の構造と機能および疾病	医学概論（人体の構造と機能及び疾病）	2	2		※ 1
	(2) 心理学理論と心理的支援	心理学概論	1	2		
	(3) 社会理論と社会システム	社会学概論	1	2		
	(4) 現代社会と福祉	社会福祉概論(1) 社会福祉概論(2)	1 2	2		
	(5) 福祉行政財政と福祉計画	福祉行政財政と福祉計画	4	2		
	(6) 地域福祉の理論と方法	地域福祉論(1) 地域福祉論(2)	3 3	2		
	(7) 社会保障	社会保障論	3	4		
	(8) 低所得者に対する支援と生活保護制度	公的扶助論	3	2		
	(9) 保健医療サービス	医療福祉論	3	2		
	(10) 権利擁護と成年後見制度	権利擁護と成年後見	3	2		
	(11) 障害者に対する支援と障害者自立支援制度	障害者福祉論	2	2		
専門教育科目	(12) 精神疾患とその治療	精神疾患とその治療(1) 精神疾患とその治療(2)	1 1	2		
	(13) 精神保健の課題と支援	精神保健の課題と支援(1) 精神保健の課題と支援(2)	2 2	2		
	(14) 精神保健福祉相談援助の基盤（基礎）	相談援助の基盤と専門職	2	4		
	(15) 精神保健福祉相談援助の基盤（専門）	精神科ソーシャルワーク論	2	2		
	(16) 精神保健福祉の理論と相談援助の展開	精神保健福祉の理論と相談援助の展開 A 精神保健福祉の理論と相談援助の展開 B 精神保健福祉の理論と相談援助の展開 C 精神保健福祉の理論と相談援助の展開 D	2 2 3 3	2		
	(17) 精神保健福祉に関する制度とサービス	精神保健福祉に関する制度とサービス(1)（関係行政論） 精神保健福祉に関する制度とサービス(2)	3 3	2		
	(18) 精神障害者の生活支援システム	精神障害者の生活支援システム	3	2		
	(19) 精神保健福祉援助演習（基礎）	精神保健福祉援助演習(1)	2	1		
	(20) 精神保健福祉援助演習（専門）	精神保健福祉援助演習(2) 精神保健福祉援助演習(3)	3 4	1		
	(21) 精神保健福祉援助実習指導	精神保健福祉援助実習事前指導 精神保健福祉援助実習事後指導(1) 精神保健福祉援助実習事後指導(2)	3 4 4	1		
	(22) 精神保健福祉援助実習	精神保健福祉援助実習	4	3		

※ 1：3科目のうち、1科目修得のこと。ただし、国家試験では3分野全体から出題されます。

※ 課程履修費等について

本課程を履修するには学納金とは別に課程履修費用等が必要です。課程履修費は、6,400円（2年次前期）、36,000円（3年次前期）、37,600円（4年次前期）です。なお、実習の際には学研災付帶賠償責任保険料340円が必要です。

徴収方法は学納金口座からの引き落としとなります。引き落としに際しては事前にご案内致します。

3 公認心理師国家試験受験資格について

〔1〕公認心理師とは

公認心理師は、心理職の唯一の国家資格で、病院・学校・福祉機関・司法関係・企業などでカウンセリングをはじめとしたさまざまな心理的援助を行う専門職の資格です。その業務については、「公認心理師法」に以下のように述べられています。

- (1) 心理に関する支援を要する者の心理状態を観察し、その結果を分析すること。
- (2) 心理に関する支援を要する者に対し、その心理に関する相談に応じ、助言、指導その他の援助を行うこと。
- (3) 心理に関する支援を要する者の関係者に対し、その相談に応じ、助言、指導その他の援助を行うこと。
- (4) 心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供を行うこと。

〔2〕所管機関

文部科学省および厚生労働省の共同所管

〔3〕受験資格取得の条件

多元心理学科の科目のうち、別表1にある科目をすべて履修して卒業した上で、公認心理師受験資格の要件を満たしたカリキュラムをもっている大学院へ進学し、必要な条件を満たして大学院を修了するか、「実務経験プログラム」*を実施している医療機関などに就職して2年もしくはそれ以上の期間のプログラムを終えないと、受験資格を取得することができません。したがって、明確な目的意識をもって取り組むことが望されます。そのため、本学ではこの受験資格に対して学内で選抜を行います。詳しいことは学科から説明を行います。

*「実務経験プログラム」については、学科から詳しく説明をします。

〔4〕「心理演習」の内容

「心理演習」では、心理的支援の実際の場面を想定したロールプレイを行い、実践に必要な知識と技能の修得を目指します。そこでは、事例を通して、コミュニケーション技能、心理検査を含むアセスメント、他職種連携を視野に入れた地域支援の方法などを倫理や法的根拠などとともに学ぶこととなります。

〔5〕「心理実習」の内容および時間数

「心理実習」においては、見学を中心として下記の内容について複数の領域の施設で実習を行います。それぞれの時間数は表に示します。

- (ア) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ
- (イ) 他職種連携および地域連携
- (ウ) 公認心理師としての職業倫理および法的義務への理解

科目名	時期	領域	時間数
心理実習(1)	3年生後期	実習指導 ①医療・保健分野（保健センター） ②福祉分野（子育て支援・福祉作業所） ③教育分野 ⑤産業分野	19.5 3 9 3 3
		計	37.5
心理実習(2)	4年生前期	実習指導 ①医療・保健分野（病院） ①医療・保健分野（保健センター等） ③教育分野 ④司法・犯罪分野	19.5 3 12 7 3
		計	44.5
		心理実習(1)+(2)	82

[6] 資格取得に要する費用

資格取得をするためには、学納金とは別に課程履修費が必要です。課程履修費は、12,240円（3年次）、12,240円（4年次）です。なお、実習の際には学研災付帯賠償保険料340円が必要です。

別表 1

省令で定める指定科目	区分	左記に対応する本学開設授業科目、単位数、開講形態および開講基準年次			
		開設授業科目	単位数	開講形態	開講年次
1 公認心理師の職責	必修	公認心理師の職責	2	毎年開講	3年次
2 心理学概論	必修	心理学概論	2	毎年開講	1年次
3 臨床心理学概論	必修	臨床心理学概論	2	毎年開講	1年次
4 心理学研究法	必修	心理学研究法	2	毎年開講	2年次
5 心理学統計法	必修	心理学統計法	2	毎年開講	2年次
6 心理学実験	必修	心理学実験A	2	毎年開講	2年次
	必修	心理学実験B	2	毎年開講	2年次
7 知覚・認知心理学	必修	知覚・認知心理学	2	毎年開講	2年次
8 学習・言語心理学	必修	学習・言語心理学	2	毎年開講	3年次
9 感情・人格心理学	必修	感情・人格心理学	2	毎年開講	2年次
10 神経・生理心理学	必修	生理心理学（神経・生理心理学A）	2	毎年開講	2年次
	必修	神経心理学（神経・生理心理学B）	2	毎年開講	3年次
11 社会・集団・家族心理学	必修	社会・集団・家族心理学	2	毎年開講	2年次
12 発達心理学	必修	発達心理学	2	毎年開講	1年次
13 障害者・障害児心理学	必修	障害者・障害児心理学	2	毎年開講	2年次
14 心理的アセスメント	必修	心理的アセスメント	2	毎年開講	2年次
15 心理学的支援法	必修	心理療法論（心理学的支援法A）	2	毎年開講	2年次
	必修	特別支援教育と障害児援助（心理学的支援法B）	2	毎年開講	3年次
16 健康・医療心理学	必修	健康・医療心理学	2	毎年開講	3年次
17 福祉心理学	必修	福祉心理学	2	毎年開講	3年次
18 教育・学校心理学	必修	教育・学校心理学	2	毎年開講	3年次
19 司法・犯罪心理学	必修	司法・犯罪心理学	2	毎年開講	3年次
20 産業・組織心理学	必修	産業心理学（産業・組織心理学A）	2	毎年開講	2年次
	必修	組織心理学（産業・組織心理学B）	2	毎年開講	3年次
21 人体の構造と機能及び疾病	必修	医学概論（人体の構造と機能及び疾病）	2	毎年開講	2年次
22 精神疾患とその治療	必修	精神疾患とその治療(1)	2	毎年開講	1年次
	必修	精神疾患とその治療(2)	2	毎年開講	1年次
23 関係行政論	必修	精神保健福祉に関する制度とサービス(1)（関係行政論）	2	毎年開講	3年次
24 心理演習	必修	心理演習	2	毎年開講	3年次
25 心理実習	必修	心理実習(1)	1	毎年開講	3年次
	必修	心理実習(2)	1	毎年開講	4年次

4 社会福祉士国家試験受験資格について

[1] 社会福祉士とは

コミュニティ福祉学科の学生は、所定の単位を修得することによって、「社会福祉士」の国家試験を受験することができます。

社会福祉士というのは、「社会福祉士及び介護福祉士法」（1988年4月施行）に定められた資格で、「専門的知識及び技術をもって、身体上若しくは精神上の障害があること又は環境上の理由により日常生活を営むのに支障がある者の福祉に関する相談に応じ、助言、指導、福祉サービスを提供する者又は医師その他の保健医療サービスを提供する者その他関係者との連絡及び調整その他の援助を行なうこと」を仕事とする国家資格です。

[2] 社会福祉士国家試験受験資格取得科目について

社会福祉士国家試験受験資格を取得しようとする学生は、以下の表に定められた授業の科目単位を、合計63単位以上修得しなければなりません。

下表の授業科目の単位は卒業要件単位として算入されます。

■ 社会福祉士指定科目と本学開講科目の関連 ■

厚生労働大臣の指定する社会福祉に関する科目	左記に対応する本学開設授業科目、開講基準年次及び単位数		
人体の構造と機能及び疾病	*	医学概論	◎2年 2
心理学理論と心理的支援	*	心理学概論	◎1年 2
	*	心理学概説	◎1年 2
社会理論と社会システム	*	社会学概論	◎1年 2
現代社会と福祉	○	社会福祉概論(1)	◎1年 2
	○	社会福祉概論(2)	◎1年 2
社会調査の基礎	○	社会調査論	◎2年 2
相談援助の基盤と専門職	○	相談援助の基盤と専門職	◎2年 4
	○	社会福祉援助技術論(1)	◎1年 2
	○	社会福祉援助技術論(2)	◎2年 2
	○	社会福祉援助技術論(3)	◎2年 2
	○	社会福祉援助技術論(4)	◎3年 2
地域福祉の理論と方法	○	地域福祉論(1)	◎2年 2
	○	地域福祉論(2)	◎2年 2
福祉行財政と福祉計画	○	福祉行財政と福祉計画	◎3年 2
福祉サービスの組織と経営	○	福祉サービスの組織と経営	◎3年 2
社会保障	○	社会保障論	◎2年 4
高齢者に対する支援と介護保険制度	○	老人福祉論	◎1年 2
障害者に対する支援と障害者自立支援制度	○	介護福祉論	◎2年 2
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	○	障害者福祉論	◎2年 2
低所得者に対する支援と生活保護制度	○	児童福祉論	◎2年 2
保健医療サービス	○	公的扶助論	◎2年 2
就労支援サービス	* *	公的扶助論	◎3年 2
権利擁護と成年後見制度	* *	医療福祉論	◎3年 2
更生保護制度	* *	就労支援サービス	◎2年 2
		* * 権利擁護と成年後見	◎3年 2
		* * 司法福祉	◎3年 2
相談援助演習	○	相談援助演習(1)	1年 1
	○	相談援助演習(2)	2年 1
	○	相談援助演習(3)	3年 1
	○	相談援助演習(4)	3年 1
	○	相談援助演習(5)	4年 1
	○	相談援助実習指導(1)	2年 2
	○	相談援助実習指導(2)	2年 2
	○	相談援助実習指導(3)	3年 2
	○	相談援助実習指導(4)	3年 2
相談援助実習	○	相談援助実習	3年 4

備考：○は、受験資格取得のため、必修科目です。

◎は、社会福祉士国家試験の出題科目です。

* 4科目のうち、1科目修得のこと。ただし、国家試験では3分野全体から出題されます。

* * 3科目のうち、1科目修得のこと。ただし、国家試験では3分野全体から出題されます。

[3] 相談援助実習指導の履修について

- (1) 「相談援助実習指導(1)」を履修するにあたっては、1年次に実施するガイダンスに出席し、希望票を提出した学生が履修することができます。
- (2) 2年次後期科目「相談援助実習指導(2)」を履修するにあたっては、2年次前期までに配当されている「社会福祉士指定科目」を、配当学年すべて履修してください。
- (3) 3年次科目「相談援助実習指導(3)(4)」を履修するにあたっては、2年次終了までに配当されている「社会福祉士指定科目」すべてを履修してください。さらに2年前期終了時のGPAの点数を勘案し履修の可否を決定します（詳細は別に定めます）。

* 配当学年にある「社会福祉士指定科目」は、必ずその学年で修得してください。修得できなかった場合は、4年終了時に国家試験受験資格付与はできなくなります。

[4] 相談援助実習の履修について

- (1) 社会福祉士国家試験受験資格取得科目のひとつである「相談援助実習」（以下「実習」と略）を履修するにあたっては、2年次終了までに配当されている「社会福祉士指定科目」すべてを履修してください。加えて、2年次開講科目の「相談援助実習指導(1)(2)」で所定のレポートを提出し、コミュニティ福祉学科が許可した学生が履修することができます。詳細については、別途配布する『実習の手引き』を確認してください。
- (2) 実習は、合計180時間以上、大学が指定する施設・機関での配属実習として行います。
- (3) 実習の履修を許可された学生は、4月にコミュニティ福祉学科実習研究室に掲示されるクラス分けに基づいて履修登録をしてください。

[5] 相談窓口について

社会福祉士国家試験受験資格取得にかかる業務は、すべてコミュニティ福祉学科におかれる実習研究室が行います。質問や相談などがあれば、実習研究室においでください。

[6] 課程履修費等について

本課程を履修するには学納金とは別に課程履修費等が必要です。課程履修費は、15,000円（2年次）、55,000円（3年次）です。

徴収方法は学納金口座からの引き落としとなります。引き落としに際しては事前にご案内致します。また、徴収した課程履修費等はいかなる理由があろうとも返還されないのでご了承ください。

なお、各学年の学外実習・活動の際には、別途、学研災付帶賠償責任保険料340円が必要です。

5 初級障がい者スポーツ指導員について

〔1〕初級障がい者スポーツ指導員とは

障がい者スポーツ指導員とは、障がいを抱えた人が体を鍛えたり、スポーツを楽しんだりすることをサポートするため、障がいに応じた適切な指導をする専門家のことです。

主催団体は、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会です。資格には、初級、中級、上級が設定されています。

初級は、「地域で活動する18歳以上の指導者で、主に初めてスポーツに参加する障がい者に対し、スポーツの喜びや楽しさを重視したスポーツの導入を支援する者。また、障がいの基本内容を理解し、スポーツの導入に必要な基本的知識・技術を身につけ、実践にあたっては、健康や安全管理を重視した指導ができる者。さらに、地域の大会や行事に参加すると共に、指導員組織の事業にも積極的に参加するなど地域の障がい者スポーツの振興を支える者。」（障がい者スポーツ指導員資格認定規程（第2条））とされています。

本学は、この資格取得のための認定校となっています。

〔2〕初級障がい者スポーツ指導員の資格取得科目について

初級障がい者スポーツ指導員の資格を取得しようとする学生は、以下の表に定められた授業の科目単位を、2単位修得しなければなりません。

以下の表の授業科目の単位は、卒業要件単位として算入されます。

基準カリキュラム	開講科目	開講年次	単位
講義科目（実技を含む）	障害者スポーツ論	1年	2

〔3〕相談窓口について

初級障がい者スポーツ指導員資格取得にかかる業務は、すべてコミュニティ福祉学科におかれ実習研究室が行います。質問や相談などがあれば、実習研究室においてください。

〔4〕課程履修費等について

本課程を履修するには学納金とは別に課程履修費等が必要です。課程履修費は15,000円（1年次前期）です。この課程履修費の中には、単位取得後に資格を申請する際の協会への申請・認定料5,500円および登録料3,800円（障がい者スポーツ指導員資格認定細則 第2章 第2条(1)による）を含みます。徴収方法は学納金口座からの引き落としとなります。引き落としに際しては事前にご案内いたします。徴収した課程履修費等は、いかなる理由があろうとも返還されないのでご了承ください。

なお、学外実習の際には、別途、学研災付帶賠償責任保険料340円が必要です。

6 中級障がい者スポーツ指導員について

[1] 中級障がい者スポーツ指導員とは

障がい者スポーツ指導員とは、障がいを抱えた人が体を鍛えたり、スポーツを楽しんだりすることをサポートするため、障がいに応じた適切な指導をする専門家のことです。

主催団体は、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会です。資格には、初級、中級、上級が設定されています。

中級は、「地域における障がい者スポーツのリーダーとしての役割を持ち、指導現場では、充分な知識、技術と経験に基づいた指導ができ、指導員の模範となる者。また、地域のスポーツ大会や行事の企画・運営に参加すると共に、全国障がい者スポーツ大会に参加する選手団のコーチとして、選手選考やその強化・育成の役割を担う者。さらに、指導員の組織化や運営にも関わり、地域の障がい者スポーツ振興を進める者。」(障がい者スポーツ指導員資格認定規程(第2条))とされています。

本学は、この資格取得のための認定校となっています。

[2] 中級障がい者スポーツ指導員の資格取得科目について

中級障がい者スポーツ指導員の資格を取得しようとする学生は、以下の表に定められた授業の科目単位を、合計19単位修得しなければなりません。なお、初級の資格を有さないものは、中級の資格を取得することはできませんので、初級の取得後に資格更新の手続きをおこなう必要があります。

以下の表の授業科目の単位は、卒業要件単位として算入されます。

基準カリキュラム	開講科目	開講年次	単位
講義科目	障害者福祉論	2年	2
講義科目	医学概論	2年	2
講義科目（実技を含む）	リハビリテーションとトレーニング	2年	2
講義科目	生涯スポーツ心理学	2年	2
講義科目	スポーツと福祉	1年	2
講義科目	スポーツと社会	3年	2
講義科目（実技を含む）	ソーシャルワーマンプロジェクトC(1)	2年	2
講義科目（実技を含む）	ソーシャルワーマンプロジェクトC(2)	2年	2
学外実習	ソーシャルワーマンプロジェクトC(3)	3年	3

[3] ソーシャルワーマンプロジェクトC(3)について

- (1) ソーシャルワーマンプロジェクトC(3)を履修するには、ソーシャルワーマンプロジェクトC(2)の単位を修得していることを要件とします。
- (2) ソーシャルワーマンプロジェクトC(3)は、学外実習の科目です。中級障がい者スポーツ指導員を取得するためには、「在学中に計80時間以上の活動経験」を積まなければなりません。活動経験とは、愛知県や名古屋市などが主催する障がい者スポーツ大会等での活動した実績のことを指します。ソーシャルワーマンプロジェクトC(3)では、80時間以上の活動経験を満たすために、合計10回以上（もしくは10日間以上）の活動に取り組む必要があります。

[4] 相談窓口について

中級障がい者スポーツ指導員資格取得にかかる業務は、すべてコミュニティ福祉学科におかれ実習研究室が行います。質問や相談などがあれば、実習研究室においてください。

[5] 課程履修費等について

本課程を履修するには学納金とは別に課程履修費等が必要です。課程履修費は、15,000円（2年次前期）、10,000円（3年次前期）の計25,000円です。この課程履修費の中には、単位取得後に資格を申請する際の協会への申請・認定料5,500円（障がい者スポーツ指導員資格認定細則第2章 第2条(1)による）を含みます。徴収方法は学納金口座からの引き落としとなります。引き落としに際しては事前にご案内いたします。徴収した課程履修費等は、いかなる理由であろうとも返還されないのでご了承ください。

なお、学外でおこなう授業や実習の際には、別途、学研災付帶賠償責任保険料340円が必要です。



**UNIVERSITY
ACCREDITED**
2015.4~2022.3

本学は、2014年度に実施された公益財団法人大学基準協会による大学評価(認証評価)を受けた結果、大学基準に適合しているとの認定を受けました。このマークは、それを証するものです。

公益財団法人大学基準協会とは：

1947年に、「内外の大学に関する調査研究を行い、会員の自主的努力と相互的援助によって、わが国における大学の質的向上を図るとともに、大学教育の国際的協力に貢献することを目的とする。」として創設された、国・公・私立の大学を会員校とする団体で、2015年度現在正会員として352校が加盟しています。

履修要覧

2018年度

2018年4月 発行

編集／発行 金城学院大学履修支援センター

〒463-8521 名古屋市守山区大森二丁目1723番地

T E L (052) 798-0180

URL <http://www.kinjo-u.ac.jp>

人間科学部